



BST-F1 VUP02 説明書

# 直接基礎・杭基礎の設計プログラム

今回の VUP02 では様々な点について改良され、そして機能が追加された結果、BST-F1 はより使い やすいプログラムになりました。

本書ではそれら変更された機能や追加された機能について説明しています。

お手数ですが目を通してご確認の上、バージョンアップされた BST-F1 をご使用ください。

なお、今回のバージョンアップは、以降「VUP02」とし、プログラム名もBST-F1以外にバージョンアップ レベルを含めてBST-F1.02と表示する場合もありますが、予めご了承ください。

1.用語について ・・・・・・5
2.メインメニュー画面の表示について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2.1 メニューバーとメニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2.1.1 [ファイル] ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
a. [ファイル]→{データを開く}・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
b. [ファイル]→{BST-GTMⅡのデータを読込む…} ・・・・・・・・・・・・・・・・・.8
2.1.2 [編集] ••••••••••8
a. [編集]→{工事名・ファイル名の修正}・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
b. [編集]→{選択中のデータを削除}・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・.9
c. [編集]→{BST-G89TMⅡから読込んだデータの整理}・・・・・・・・・・11
2.1.3 [実行]
a. [実行]→{計算結果の表示・印刷}・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2.1.4 [設定] ••••••••••••••••••••••••••••••••••••
a. [設定]→{出力用フォント設定}・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
2.2 基礎リストの表示について・・・・・・16
a. 直接入力したデータの時の項目表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
b. BST-G89TMⅡから読み込んだデータの時の項目表示・・・・・・・・・・・16
3.BST-G89TM II の計算結果から支点反力を読み込む ···········17
3.1 機能
3.2 操作
3.2.1 実際の操作説明の前に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
3.2.2 操作説明 ・・・・・18
4.BST-G89TMⅡから読み込んだデータの整理 ·····21
4.1 機能
4.2 グループ化について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
4.3 操作
4.3.1 基礎の荷重状態が知りたい時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
a. 一つの基礎の荷重状態の表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
b. 複数行の基礎の荷重状態をまとめて表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・26
4.3.2 設計用基礎名をつける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
a. 一つまたは複数の基礎に(まとめて)設計用基礎名をつける ・・・・・・・・27

b. 既にグループ化されている基礎のグルーを変更する ・・・・・・・・・・29
5.基礎データの入力
5.1 直接入力したデータと BST-G89TMⅡから読み込んだデータの違い ・・・・・・32
5.2 直接基礎
a. 「メイン」入力画面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
b. 「詳細」入力画面 ··········33
5.3 杭基礎
a. 「メイン」入力画面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
b. 「詳細」入力画面 ····································
5.4 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
5.4.1 <現 状 記 録 終 了 >ボタン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
5.4.2 〈登 録 〉ボタン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
5.4.3 <複製>ボタン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
6.計算結果の表示 ····································
6.1 テストデータについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
6.2 操作
6.2.1 表示画面が表示されるまで ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
6.2.2 表示機能の改良点について40
6.2.3 表示画面
6.2.4 拡大表示·縮小表示 ······42
6.3 計算結果の表示 ······45
6.3.1 直接基礎の表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
6.3.2 杭基礎の表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
7. 旧保存データの使用について ・・・・・ 48
8.新保存データについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
9.SI データのみの対応となった ・・・・・ 48
10. 一部の杭配置で杭間距離のとり方が変更された49
11. 一度に複数行のデータ削除ができる
12.出力用フォント設定機能が追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
13.その他・使用にあたっての注意点 ・・・・・ 50

1. 用語について

本説明書では、説明には今回の VUP02 とそれ以前のバージョンを区別するために、バージョンアップ以前のものには「旧」を付けて表現し、VUP02 に関するものには「新」を付けて説明します。

旧バージョン VUP00, VUP01の BST-F1 で、最終バージョンは Ver1.37(rev.080510)

旧実行データ VUP00,VUP01 用の入力データ

- 旧実行ファイル 旧実行データが記録されたファイルで、VUP00,VUP01 が実行時に直接使用するファイル。計算結果も記録されている
- 旧実行ファイル名 旧実行ファイルのファイル名 (ファイル名は F1dat.f1d)
  - ※ 旧実行データと旧実行ファイルは本来は違うものだが、本書では厳密に区別しないで 使用している

旧保存データ 保存された旧実行データ

- 旧保存ファイル 旧実行データを圧縮して保存したファイル(拡張子は.lzh)
- 旧保存ファイル名 旧保存ファイルのファイル名
  - ※ 旧保存データと旧保存ファイルは本来は違うものだが、本書では厳密に区別しないで 使用している
- 新実行データ VUP02 形式の入力データ
- 新実行ファイル 新実行データが記録されたファイルで、VUP02 が実行時に直接使用するファイル。計算結果も記録されている
- 新実行ファイル名 新実行ファイルのファイル名(ファイル名は F1dat02.f1d)
  - ※ 新実行データと新実行ファイルは本来は違うものだが、本書では厳密に区別しないで 使用している
- 新保存データ 保存された新実行データ
- 新保存ファイル 新実行データを圧縮して保存したファイル(拡張子は.lzh) 新保存ファイルと旧保存ファイルの違いは、新保存ファイルの頭には"V02\_"が 付けられています。これはデータを保存するときに自動的に付けられる
- 新保存ファイル名新保存ファイルのファイル名
  - ※新保存データと新保存ファイルは本来は違うものだが、本書では厳密に区別しないで 使用している

2.メインメニュー画面の表示について

2.1 メニューバーとメニュー

まずプログラムを立ち上げて、最初に表示されるメインメニュー画面のメニューバーが少し変わりました。

ここではメニューバーおよびメニュー項目について、旧タイプと新タイプを比較しながら説明します。 なお、特別に断らない限り左側が「旧タイプ(VUP02 以前)」のもので、右側が「新タイプ (VUP02)」のものとなっています。

メニューバーそのものは、下図のようにほとんど同じものです。

内容も、2項目では[基礎データ作成]と[編集]のように表現に違いはありますが、基本的には同じ 内容となっています。

詳細は「2.1.2 編集」(p.8)を参照してください。



メニューバーに表示されているそれぞれの項目をメニューグループとします。

メニューグループは、例えば新タイプのメニューバーでは [ファイル]、[編集]、[実行]、[設定]を指します。

以下に VUP02 になって変更等があり、説明の必要があるメニュー項目の機能を、メニューグループ毎に説明します。

2.1.1 [ファイル]



ここでは、{データを開く…}以外は、表示は違っていても機能は変更されていません。

また、VUP02 では 6 項目に{BST-GTM Ⅱのデータを読込む…}という項目が新たに追加されていますが、この追加機能から BST-G89TM Ⅱの計算結果から支点反力データを読み込 むことができます。

以下にこの機能について説明します。

a. [ファイル]→{データを開く}

旧保存データの使用について

保存されたデータを読み込み、実行データとする機能ですが、VUP02 では基本的に新デー形式を使用するように作られているため、旧保存データをそのまま使用することはできません。旧保存データと新保存データは形式が違うのがその原因です。

そこで VUP02 では{データを開く}で指定された保存ファイルが旧保存ファイルの場合は、 それを VUP02 用の新実行データ(F1dat02.f1d)に変換し、続いてその新実行データを新保 存データとして自動的に保存するようにしました。

なお、保存する時のファイル名は、旧保存ファイルメイの頭に "v02\_" を付けたファイル名 となっています。

これで次からは、新保存ファイルを開けば新実行データとして読み込むことができます。

注意 最初に読み込んだ旧保存データはそのまま残していますので、お客様が不要であると 判断できましたら、必要に応じて削除してください。 なお、BST-F1.02 ではお客様が再び旧保存データ読込を指示しない限り、BST-F1.02 自体は旧保 存データを必要としないし、使用もしませんので、削除するかどうかはお客様の判断で決定してくだ さい。



b. [ファイル]→{BST-GTM II のデータを読込む…}

この機能は VUP02 で新しく追加された機能です。

この機能により、BST-F1.02をBST-G89TM II の拡張機能のように使用することができ、大変 便利に基礎の計算ができるようになりました。

BST-F1.02 を使えば、この機能を実行するだけで、基礎の設計をする際に必要だった<u>応力</u>の拾い出しや転記、そして計算のための入力といった一連の煩雑な作業を全て省略し、それらを一瞬で素早くミス無く済ませてしまうことができる、非常の便利な機能です。 操作等の詳細は〇〇〇を参照してください。

2.1.2 [編集]

4 () 4 = - -

このメニューグループ名は[基礎データ作成]から[編集]に変更されていますが、基本的なメ ニュー機能は同じです。

以下に項目ごとの説明をします。

この項目は、項目名が変更されているだけではなく、VUP02 で使用 できる単位が <u>SI 単位のみ</u>になったことに伴って、ここでの入力内容も 変更されている

(2.1.2 a [編集]→{工事名・ファイル名の修正}参照(p.9))

NUNT			
ファイル(E)	編集(E) 実行(E) 設定(M)		ここは入力されている基礎データの一部を削
	工事名・ファイル名の修正		除するための機能だが、旧バージョンでは 1
	新規独立フーチング基礎の追加	Ctrl+F1	データづつしか削除できないが、VUP02 では
ファイル	新規杭基礎の追加	Ctrl+F2	複数行のデータをまとめて削除することができ
入力済み	選択中のデータを削除		る(2.1.2 b [編集]→{選択中のデータを削除}
	全デーダ川除… 	<u>ر</u> م 17°	参照(p.9))
1 F	BST-G89TMIIから読込んだデータの整理		入力されている基礎データがIBST-CTMIIの
2 F	1 F002(仮名) 1	1 102 直接:	データを読込む…}で読み込まれたデータの場
3 F	1 F003(仮名) 1	1 103 直接	合、ここは正規に表示され、有効になる

入力されている基礎データが通常の「個別に
入力されたデータ」の場合、表示が薄くなり、
この機能は使えない状態になる

					-
			-	11.	メインメニ
実行(E) 設定(M)	€( <u>M</u> )	実行(E) 設定	編集(E)	2-1	ファイル(E
ファイル名の修正	-	ファイル名の修正	工事名	+	
Zフーチング基礎の追加 Ctrl+F1	豊の追加	立フーチング基礎	新規独	.≇ 	
き礎の追加 Ctrl+F2		基礎の追加	新規杭	μ_	ファイ。 
)データを削除…		のデータを削除…	選択中	済。	入力》
<b>训除</b>		哨叩涂	全データ	18-	
9丁MIから読込んだデータの整理	込んだデー	89〒MIから読え	BST-G	F	1
直接基礎 600 600 3000 3000	600	直接基礎	2	F2	2
杭基礎 600 600 1200 1200	600	杭基礎	F1	PF'	3
Zフーチンク基礎の追加     Ctrl+F1       基礎の追加     Ctrl+F2       )データを削除        削除     9TMI から読込んだデータの整理       直接基礎     600     600     3000     30       杭基礎     600     600     1200     12	差の2単加 へたテペー 600 600	ロフーチンク基礎 基礎の追加 Dデータを削除 削除 89TMIから読む 直接基礎 杭基礎	新規独 新規杭 選択中 全デー BST-G 2 F1	ル 斎 王 F F F F	ファイ。 入力》 1 2 3

a. [編集]→{工事名・ファイル名の修正}

この機能は、旧バージョンの{工事名の修正}が VUP02 になって{工事名・ファイル名の修 正}へ変更されたものですが、名称だけではなく機能も一部変更されています。

これは、旧バージョンでは SI 単位の他に CGS 単位も使用できましたが、VUP02 になって使用できる単位系は SI 単位のみになったことに因ります。



これに伴って、下図のように入力ダイアログが変更されています。

旧バージョン

新バージョン(VUP02)

b. [編集]→{選択中のデータを削除}

旧バージョンの{基礎データの個別削除}は、VUP02 になって{選択中のデータを削除}へ変 更されていますが、名称だけではなく機能も拡張されています。

入力されている基礎データで不要なデータを削除する場合、<u>旧バージョンでは1データ(1</u> 行)ずつしか削除できませんでした。しかしこれでは削除したいデータが複数行あった場合、

「削除データ選択」→[基礎データ作成]→{基礎データの個別削除}→<OK>

の操作を<u>削除したいデータの行数分繰り返さなければいけません</u>。これはかなり煩雑な作業 となります。

そこで今回の VUP02 では、不要なデータを削除する場合、それが複数データ(複数行)あっても、連続して入力されていれば一度で削除できるように改善しました。

これにより不要な基礎データが複数行あっても、削除作業は大幅に短縮され簡単になりました。



これを VUP02 ではリスト表示で複数行の選択ができるように機能アップしたことで可能となりました。



ここでは、右図のようなデータがあって、操作例として、その中の3行 目から5行目までの3行のデータ を削除してみます。

x	123	*==-													
-	アイル	いE) 編集(E	) 実行(E) 設定(M	Ð											
		工事名: AS	D耶新築工事_1(S造	)				_	(SI単位)						
	ファ	√ル名: [v0;	2_ASD邮新鎬工事_1(	S造)											
	λ	力済み基礎テ	「ータリスト(データ数	:7)										<ul><li>(BST-G89TM2からの読込データ)</li></ul>	
		設計基礎	名 仮基礎名	層	76-4	軸	\$イフ°	Lx(m)	Ly(m)	(nx)	(ny)	(@x)	(@y)	XE	<u>^</u>
		1 F1	F001(仮名)	1	1	101	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2		-
		2 F1	F002(仮名)	1	1	102	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2		
		-9 E1	F003(仮名)	1	1	103	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2		
1	4	ै4 F1	F004(仮名)	1	3	101	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2		
		5 PF1	F005(仮名)	1	3	103	杭基礎	2000	1000	2	2	200	200		
		6 1	F006(仮名)	1	4	102	杭基礎	2000	1000	2	2	200	200		
		7 P)	F007(仮名)	1	4	103	杭基礎	2000	1000	2	2	200	200		
		8													
		9													
		10													
		,													
			$ \land \land $											終了	1
															1
	BS	T-F1(基础	3 行目をク	リック	ク	sdlab.c	om	s	upport@	asdlab	.com			(C)2010 ASD Laboratory Allright reserved.	100625

まず削除する最初の <u>3</u> 行目を左 クリックします。これは 3 行目内で あれば、図のように左端のタイトル 部でなくても、どこでもかまいませ ん。

オインメニュー ファイル(F) 編集(E) 実行(E) 設定(M) 工事名: ASD那新築工事\_1(S造) (SI単位) ファイル名: v02\_ASD郎新築工事\_1(S造) 入力済み基礎データリスト(データ数:7) (BST-G89TM2からの読込データ) 層 フレーム 軸 タイプ Lx(m) Ly(m) (nx) (ny) @x) @y) メモ 設計基礎名 仮基礎名 2000 2000 15 15 2000 2000 15 15 101 直接基礎 F001(仮名) 1 F1 2 2 F002(仮名) 102 直接基礎 3 F1 F003(仮名) 103 直接基礎 2000 2000 15 15 2 2 F004(仮名) 101 直接基礎 4 F1 2000 2000 15 15 3 5 PF1 F005(仮名) 3 103 杭基礎 2000 1000 2 2 200 200 
 2000
 1000
 2
 2
 200
 200

 2000
 1000
 2
 2
 200
 200
 F006(仮名) 4 102 杭基礎 7 PF F007(仮名) 4 103 杭基礎 10 終了 BST-F1(& 5 行目を指定する時は<Shift>+左クリックとする 2010 ASD Laboratory Allright reserved. 100625

次に削除範囲の5行目を指定す るのですが、この時<u>〈Shift〉キーを</u> 押したままマウスボタンを左クリッ クしてください。 これで左図のように3行目から5 行目までが選択できます。

メインメニ	17	-												
ファイル(日	ĥ	編集(E) 実行(E) 設定(M	)											
	r	王事名・ファイル名の修正												
エ4 ファイ)	▶ レ	新規独立フーチング基礎の注 新規杭基礎の追加	自力口	Cti Cti	rl+F1 rl+F2		-	(SI単位)	>					
入力済	ii(	選択中のデータを削除_											(BST-G89TM2からの読込データ)	
		全王一列川社				۲7°	Lx(m)	Ly(m)	(nx)	(ny)	(@x)	(@y)	XE	^
1	F_	BST-G89TMII から読込んだ	ミデータの整理	1		[接基礎	2000	2000	15	15	2	2		-
2	F1	F002(仮名)	1	1	102	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2		
3	F1	F003(仮名)	1	1	103	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2		
4	F1	F004(仮名)	1	3	101	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2		
5	PF	F005(仮名)	1	3	103	杭基礎	2000	1000	2	2	200	200		
6	PF.	F006(仮名)	1	4	102	杭基礎	2000	1000	2	2	200	200		
7	PF	F007(仮名)	1	4	103	杭基礎	2000	1000	2	2	200	200		
8				_										
9														
10														
													終了	
BST-F	10	巷礎の設計) ver2.01_02	http	p://a:	sdlab.co	om	s	upport@	asdlab	.com			(C)2010 ASD Laboratory Allright reserved.	100625

削除範囲の指定ができたら、次 はメニューから[編集]→{選択中 のデータを削除}とします。



削除確認のダイアログが表示されますので<OK> をクリックしてください。

これで2行目から5行目までの3行のデータが1 度で削除できます。

(削除を中止する場合は、ここで<キャンセル>をクリッ クしてください)

-																
メインメ	1-															
ファイル(	) 編集( <u>E</u> ) 写	【行(E) 設定(№	Ø													左回け削除された結果です
ב דיקר	事名: ASD野 ル名: v02_AS	所築工事_1(S造) D耶新築工事_1(	) S造)				_	(SI単位)	•							
入力	済み基礎データ	リスト(データ数:	:4)											(BST-G89TM2からの読込データ)		
	設計基礎名	仮基礎名	層	76-4	軸	917°	Lx(m)	Ly(m)	(nx)	(ny)	(@×)	(@y)	×т		<u>^</u>	
	F1	F001(仮名)	1	1	101	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2			-	
2	F1	F002(仮名)	1	1	102	直接基礎	2000	2000	15	15	2	2				
	PF1	F006(仮名)	1	4	102	杭基礎	2000	1000	2	2	200	200				
	PF1	F007(仮名)	1	4	103	杭基礎	2000	1000	2	2	200	200				
	i													0 = /=	× 1.	
	1													3~5 行までのア		い削除されている
	<u> </u>															
														]		
														終了		
BST	F1(基礎の設計	) ver2.01_02		http://a	asdlab.c	om	s	upport@	asdlab.	com			(C)2010 AS	D Laboratory Allright reserved.	100625	

c. [編集]→{BST-G89TM II から読込んだデータの整理}

{BST-G89TM Ⅱから読込んだデータの整理}は BST-G89TM Ⅱからデータを読み込んだ時、設計用基礎名を設定し、データをグループわけをする、必ず行わなければいけない必須操作です。

詳細な内容につきましては、後述の「3. [編集]→{BST-G89TM II から読込んだデータの 整理}」を参照してください。

- 2.1.3 [実行]
  - a. [実行]→{計算結果の表示・印刷}

この機能もVUP02では、表示のための操作や計算結果の出力内容も含めて、大幅に見直され、より使いやすいものとなりました。

基礎の計算結果は、基礎断面図や配筋図も出力されるようなりました。

詳細に付きましたは「6. 計算結果の表示」(p.37)を参照してください。

2.1.4 [設定]

a. [設定]→{出力用フォント設定}

ここでは計算結果の表示や印刷出力で使用するフォントの設定ができるようになりました。 それでは早速操作に入ります。

メインメニュー				
ファイル(E) 編集(E) 実	(行(E)	設定(M)		
		共通値の登録	Ctrl+C	
	T築工事	出力用フォント設定	Ctrl+F	
入力済み基礎データ	™菜上毎 ノスト (ラ	鉄筋強度マスター 鉄筋サイズマスター		
設計基礎名	仮基碼	キーアクション	Ctrl+K	
1	F001 ((	キャンセル時のメッセージ 		き 礎
2	F002((	コンクリート強度について		き 礎
3	F003((	反名) 1 1	103 直接	き礎

メニューから [設定]→{出力用フォント設定}と進 み、クリックします。

	フォント	外州文字	一般文字	添字	MS明朝 MSDBBB
1	MSP明朝	12	9	7	MSゴシック
2	MS明朝	12	8	6	MSPコシック
3	MSPゴシック	12	8	6	《フォントの指定
4	MSゴシック	12	8	6	
5	MSP明朝	14	10	8	このフォントセットを使う
6	MS明朝	14	10	8	
7	MSPゴシック	14	10	8	
8	MSゴシック	14	10	8	

フォント設定画面が表示されます。

バックカラーが薄黄色になってい るのは、現在使用しているフォント です。

画面に表示されているのは、既に 登録されている「フォントセット」で す。

色々と試してみた結果、この範囲 のセットを使うのが妥当だという事 が分かりました。

従って、フォントセットを変えてみる場合でも、この範囲の中から選ぶ範囲でないと、紙面の関係 でうまく出力されませんので、予め承知しておいてください。

しかしながら、そうではあっても機能として、フォントセットの設定はできることには違いありま せん。

ということで、一応操作方法について説明いたします。



まず、変更するフォントセットを、既 存のフォントセットの中から選ぶの であれば、左図のように、選択す るフォントセットの行をクリックし(左 図では4行目のセット)、〈このフォ ントセットを使う〉ボタンをクリックし ます。



すると選択したフォントセットの行が 左図のように薄黄色になります。こ れで、この行が選択されたことが確 認できますので、〈登録〉ボタンをク リックしてください。

既に登録されている別のフォントセットを選択し直すだけではなく、その内容 までも変更する場合、またはまったく空欄の行に新たにフォントセットを作成 する場合の操作を説明します。

説明は「既に用意されてるフォントセット(3行目)の内容を変更し、それを新し いフォントセットとし、使用登録する」という前提で行います。

5.7	ォント	ቲ <u></u> ንኑ					
	1	フォント MSP明朝	タイトル文字 12	<u>一般文字</u> 9	添字 7	MS明朝 MSP明朝 MSゴシック	-
	2 3	<del>MS明朝</del> MSPゴシック N	12 12	8	6 6	6 MSPゴシック 6 《フォントの指定	
	4	MSゴシック <sup>ベ</sup> MSP明朝		8	6	6 3 この7ォントセットを使う	
	6	MS明朝 MSPゴシック	14	10	8	3	
	9	M83999	14	10	8	3 キャンセル 「一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	1
	10						

まづ、3行目をクリックします。

そしてカーソルが 1 項目の「フォン ト」の枠をクリックし(①)、

	フォント	外小文字	一般文字	添字	
1	MSP明朝	12	9	7	MSISYAL D
2	MS明朝	12	8	6	MSPIDy C
3	MSPゴシック	12	8	6	《フォントの指定
4	MSゴシック	12	8	6	
5	MSP明朝	14	10	8	このフォントセットを使う
6	MS明朝	14	10	8	
7	MSPゴシック	14	10	8	
0	MO-12 mb	14	10	0	The second second

次に右側のフォント群の中から使 いたいフォントを選択します。 ここでは左図のように「MSP ゴシッ ク」から「MSP 明朝」へ変更すること にしますので、右側のフォント群の 中から「MSP 明朝」を選択し(②)、

3 フォント	セット				_ 🗆 🔀
	フォント	如小文字	一般文字	添字	MS明朝
1	MSP明朝	12	9	7	MSP明朝 MSゴシック
2	<del>MS<sup>B</sup>用朝</del>	12	8	6	MSP3292
3	MSP明朝	12	8	6	《フォントの指定 ③
4	MSゴシック 😌	12	8	6	
5	MSP明朝	14	10	8	このフォントセットを使う
6	MS明朝	14	10	8	
7	MSPゴシック	14	10	8	
8	MSゴシック	14	10	8	キャンヤル
9					
10					登録

<フォントの指定>をクリックします (③)。

すると左側の表のフォントの項に、 今選択した「MSP 明朝」の文字が 入力されます(④)。

	フォント	タイトル文字	一般文字	添字	
1	MSP明朝	12	9	7	
2	MS明朝	12	8	6	
3	MSPゴシック 🦯	12	8	6	
4	MSゴシック	ht 12	8	6	
5	MSP明朝	3 14	10	8	このフォントセットを使う
6	MS明朝	14	10	8	
7	MSPゴシック	14	10	8	
8	MSゴシック	14	10	8	キャンセル
9					177 677

フォントサイズは「タイトル文字」、 「一般文字」、「添字」と分かれてい ますが、変更しようとする「文字」の 入力枠をクリックし(⑤)、

フォント	ቲ <del></del> ንኑ				
	フォント	外ル文字	一般文字	添字	1
1	MSP明朝	12	9	7	
2	MS明朝	18	8	6	
3	MSP明朝	11	8	6	
4	MSゴシック	612	8	6	
5	MSP明朝	14	10	8	このフォントセットを使う
6	MS明朝	14	10	8	(7)
7	MSPゴシック	14	10	8	
8	MSゴシック	14	10	8	4.67.0470
9					17/2/
10					登録

そこに変更したいフォントサイズを 直接入力、例えば 11(ポイント)の ように入力します(⑥)。

その後、〈このフォントセットを使う〉 ボタンをクリックしてください(⑦)。

	フォント	外州文字	一般文字	添字			
1	MSP明朝	12	9				
2	MSBEE	12	8	f			
3	MSP明朝	11	8	6			
4	MSゴシック	12	8	E	2		
5	MSP明朝	14	10	6		このフォントセットを	使う
6	MS明朝	14	10	ε			
7	MSPゴシック	14	10	ε			
8	MSゴシック	14	10	8			- 11
9						++20	uv.
9 10 ント	セット						-
9 10 ント	29k		A.R L				
9 10 ント	セット		一般文字	添字			
9 10 ント	<b>セット</b> フォント MSP明朝	外州文字 12 12	一般文字 9	添字			
9 10 2	<b>セット</b> フォント MSP明朝 MS明朝	ダイトル文字 12 12	<u>一般文字</u> 9 8	添字			
9 10 2 3	<b>セット</b> フォント MSP明朝 MS明朝 MSP明朝	タイトル文字 12 12 11	<u>一般文字</u> 9 8 8	添字	7		
9 10 2 3 4	<b>セット</b> フォント MSP明朝 MS明朝 MS <b>可明</b> 朝 MS <b>可明</b> 朝	外小東文字 12 12 11 12	一般文字 9 8 8 8	添字	7		
9 10 2 1 2 3 4 5	<b>セット</b> フォント MSP明朝 MS明朝 MS <sup>中</sup> 明朝 MSゴシック MSP明朝	外小以文字 12 12 11 11 12 14	→般文字 9 8 8 8 10	添字 	7	++2/4 ●新 このフォントセットを	.n
9 10 2 3 4 5 6	<b>セット</b> フォント MSP明朝 MS明朝 MS可明朝 MSゴシック MSP明朝 MS明朝	タイトル文字 12 12 11 11 12 14 14	→般文字 9 8 8 10 10	添字 	7	++2/4 一 一 このフォントセットを	.# 
9 10 2 1 2 3 4 5 6 7 7	<b>セット</b> フォント MSP明朝 MS明朝 MS可明朝 MSゴシック MSP明朝 MS明朝 MS明朝	タイトル文字 12 12 11 11 12 14 14 14	→般文字 9 8 8 10 10 10	添字 	7	++2/4 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	

すると左図のように3行目が薄黄 色になり、この行が選択されたこと が確認できます。

そして、最後に<登録>ボタンをクリ ックして登録を完了します(⑧)。 2.2 基礎リストの表示について

VUP02では入力されている基礎データの種類が2種類あります。
それは、
1)従来どおり直接基礎データを入力したの場合
2)BST-G89TMⅡからデータを読み込んだ場合
の2種類です。

これらは入力されている性格も違うため、入力データのリスト表示ではその表示項目を変える必要がありました。

下記にそれぞれのデータ形式での表示画面を紹介しますので、確認しておいてください。

a. 直接入力したデータの時の項目表示

·					
メインメニュー					
ファイルセノ 備来セノ 美口モノ 設	JE W				今は基礎アータか「直接人刀」され
工事名: テストデータ新築工			(5	SI単位〉	た仏能れのホテァに伝えまニナル
ファイル名: 102_テストデータ新	築工事				に状態なのでここに何も衣示され
入力済み基礎データリスト(デー	夕数:5)				ていたい
設計基礎名 TYP	ax(cm) ay(cm)	Lx(m) Ly(m) (r	w) (ny) (@	(@x) (@y) XE	
F1 直接基礎	600 600	2400 2400	10 10 2	200 200 P.191 例14【b】正方形基礎	
2 F2 直接基礎	600 600	3300 3300	16 16 2	200 200 P.192【c】正方形基礎	
3 F3 直接基礎	600 600	3000 2200	16 8 2	200 200 P.192【d】長方形基礎	
4 テスト 直接基礎	0 0	0 0	2 2 2	200 200 ~	
5 pF11 杭基礎	900 700	3000 '32.051	2 2	2 2 RC基準P.263【計算例2】	
6					
/					$\mathbf{X}$
					$\mathbf{X}$
10					
					$\mathbf{X}$
				×477	
/				002 1	$\mathbf{X}$
BST-F1(基礎の設計) ver2.01_02	http://asdlab	.com supp	ort@asdlab.c	com (C)2010 ASD Laboratory Allright reserved. 100625	$\mathbf{X}$
	4±σ μΞ		51×1	「古井ユナンナルキル能のナのオナン	
	まやのよう	に奉碇ナー	-201	「直接入力」された状態のものです)	$\mathbf{X}$
1					
, 入力済み基礎データリス	ト(データ数:	5)			
設計基礎名 TY	'P ax	(cm) av(cm)	Lx(m)	) Ly(m) (nx) (ny) (@x) (@y) 🗶 🔪	
1 [1 ]	+# # #	600 600	0400	2 2400 10 10 200 200	
	按空啶	000 000	2400	J 2400  TU  TU  200  200	

b. BST-G89TM II から読み込んだデータの時の項目表示

አイン	**-1-										_												
771)	ル(E) 編集(E) 3	実行(E) 設定(M	Ø																				
	T事名: ASDER	新統工事(S语)					_ (	(SI単位)															
7	ー・ー prober アイル名: ASDER	新統工事(S语)					_																
			- 1											_									
Ê	、刀済み基礎データ	リスト(データ数	:5)		++	h (		1.63	6.1	< >1	(0.)	6.1	177	(B	ST-G89TI	42からの時	5达7~~9)						
┢	設計基礎名 1	(仮基礎名 5001(/52)	層	76-4	101	917*	Lx(m)	Ly(m)	(mc)	(ny)	(@x)	(@y)	×t					S.					
-	2	F001(灰石) F002(仮名)	1	1	102	直接基礎	0	0	2	2	2	2											
1	3	F003(仮名)	1	1	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2											
1-	4	F004(仮名)	1	3	101	直接基礎	0	0	2	2	2	2											
-	5	F005(仮名)	1	3	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2											
	6	F006(仮名)	1	4	102	直接基礎	0	0	2	2	2	2								$\mathbf{i}$			
	7	F007(仮名)	1	4	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2											
	8																						
-	9																						
L	10								_		_												
																[							
																	冬了						
B	ST-F1(基礎の設計	) ver2.01.02	ŀ	nttr://ae	sdlah or	m	8	unnort®	asdlahu	com		(	(C)2010	1 ASD Labor	atory Allri	ght reserv	ed.	100625	-				
																				_			$\geq$
t	済み基礎デ	ータリスト	(データ	皴:	5)															(BST	-G89TM2	2からの読込デ	-9)
	設計基礎	名 仮基	礎名			層 フレ		<b></b>	1 91	זי		L×	(m)	Ly(m)	(nx)	(ny)	(@x)	(@y)	хŧ			1	
1	1	F00 <sup>-</sup>	1(仮名	)		1	1	10	1 直	接基	礎		0	0	2	2	2	2			$\overline{}$		
									/			-							-				
			$\geq$	4																			
Г																			/			L	7
	通常の	直接入	カレオ	たデ	<b>ا</b>	タのと	きと	:、主	に	2		3	デー	ータが	現在	の BS	ST-G	89T	MⅡから詞	売込まれ	1たもの	)の時は、	
	の部分の	の表示す	頁目7	が違	5	ている	5					2	_の	ように	表示	され	る						
1																							1

3. BST-G89TM II の計算結果から支点反力を読み込む

3.1 機能

今回の VUP02 で「1.1.1 b. [ファイル]→{BST-GTM II のデータを読込む…}」にもあるように、 BST-F1 は BST-G89TM II の計算結果から支点反力を読み込み、自動的に BST-F1.02 用のデ ータを作成することができるようになりました。

これにより、BST-G89TM Ⅱの補助計算としての基礎計算が大幅に短縮できるようになりました。

これはメニューの [ファイル]→{BST-GTMⅡの出力データを読込む} から実行することができます。

メインメニュー			
ファイル(E) 編集(E) 実行(E) ፤	設定( <u>M</u> )		
新規作成	Ctrl+N		
データを開く	Ctrl+O		
名前を付けてデータを保存	Ctrl+S		
保存データの削除	Ctrl+D		
保存データの移動	Ctrl+M		Lister
BST-GTMIの出力データを読みう	సేరు	)0	330
終了	Ctrl+Q	0	300
3 PF1 杭基礎	600	600	120

また、読み込んだデータは計算前に基礎名をつけてグループ化をしたり、グループ毎の基礎 サイズや、必要に応じて配筋条件を入力しなければいけませんが、これらの内、

- a. グループ化と基礎形式(直接基礎/杭基礎)の指定は後述の「4. BST-G89TMⅡから読込 んだデータの整理」(p.21)を参照してください。
- b. それ以外の、基礎のサイズや配筋条件やその他詳細な設計条件は個別の基礎データの入 力で行ってください。

3.2 操作

3.2.1 実際の操作説明の前に

まず BST-G89TMⅡのデータを読込むための実際の操作説明の前に、画面の説明からします。

画面は基礎データが直接入力されたデータの場合からはじめます。

従って、開始時の画面はした図のようになっています。

これは基礎データのリスト表示が、直接入力したものとBST-G89TMIIから読込んだものとの違いを説明するために、このようにしました。



## 3.2.2 操作説明

メインメニュー										
ファイル(E) 編集(E) 実行(E) 設定	M									
新規作成 データを開く	Ctrl+N Ctrl+O	_				_	(SI単	位〉		
名前を付けてデータを保存	Ctrl+S									
保存データの削除 保存データの移動	Ctrl+D Ctrl+M	-			( )	<u></u>	(0.)	(8.)		
DET OTME OULTHE DESERVED		n)	Lx(m)	Ly(m)	(nx)	(ny)	(@x)	(@y)	XE	1
B31-GTM1022777 ->88888026		)0	2400	2400	10	10	200	200	P.191 例14【b】正方形基礎	
終了	Ctrl+Q	)0	3300	3300	16	16	200	200	P.192【c】正方形基礎	
3 F3 直接基礎	600	600	3000	2200	16	8	200	200	P.192【d】長方形基礎	
4 テ/ 直接基礎	0	0	0	0	2	2	200	200	~	
5 杭基礎	900	700	3000	'32.051	2	2	2	2	RC基準P.263【計算例2】	
										1
[ファイル]→{ BST-G	TM I	[ 0	)デ	·	Þ					
を読込む}をクリック										]
									終了	]
BST-F1(基礎の設計) ver2.01_02	http://as	dlab.o	om	s	upport	@asdla	b.com		(C)2010 ASD Laboratory Allright reserved.	100625

それではここで[メニュー]から { BST-GTM IIのデータを読込む}をク リックします。

BST-F1		X
(į)	BST-G89TMIIのデータは、現在のデータを削除約金に読み込まれます。 現在のデータを保管しておく必要がある場合は、ここで読み込みを中止しデータを保管してください。	
	「BST-G89TMIIのデータあ込」を続けていいですか? (中止する場合は「キャンセル))	

確認画面が表示されます。 <OK>をクリックして作業を続けます。

3, BST-G	89TMIから読	込んだ基礎位置	の支点リスト					DST_C901	พท๛ะ	データけー	照べ詰7
ASD邸制	「範工事(S造)	履名 コレーク	名融名	仮名称 設計基礎	8-25 JU-7° 947°			DS1-G691			19年 し 記の
1 1	1 101	1 1	101 FI	101(仮名)	0 直接基	避 選択を解釈	<b>*</b>	込まれ、い	きなり読	み込んだう	ーータの署
3 1	1 102	1 1	102 Fi	102(版名) 103(版名)	0         直接垫           0         直接垫			理画面が表	長示され	ます。	
4 1 5 1	3 101 3 103	1 3	101 FI 103 FI	104(仮名) 105(仮名)	0 直接基 0 直接基						
6 1	4 102	1 4	102 FI	006(仮名)	0 直接基 0 直接基						2
8	4 103	1 4	103 FI	1070頃名)	0 直接叠	が近 ケルーフドb		通常はこの	)ままここ	で基礎名	をつけた
9 10								(グループ	分け)基	礎の種類	直接基础
荷重内	副を表示						$ \setminus$	/杭基礎)の	つ指定等	あします。	
	反名称 設計	基礎名 外7°	荷重 N	н	M N	H M		1 4 1 7 7 7	5)+[DC]		I のデ
1 2									. (T   D2 ]	I-G891M1	
3								を読み込ん	だ」、と	いうことで	-端作業を
5								終了し、メ	インメニニ	ュー画面に	戻ることに
7								します			
9								0 2 2 0			
10											
						S	終了 	なおここで	の詳細	な作業に	っきまして
						$\leq$		は、後述の	√4. B	ST-G89TN	[Ⅱから該
			<級⁻		[ク] 。			込んだデー	-タの敷	理 (n 21)z	~参昭)で
								とんにノ	/~正	P∓](p.21)(	
			X12	/メニュー	画面に戻る			くだろい。	$\backslash$	<b>\</b>	
_								_		$\backslash$	
	BST-G	の「P-3	階名称	; 「P-4 車		読込んだ	ぎときに仮に付				
	ベスカ	キカブル	て々新り	- い	(主子)	けんわた	甘本々				
		24000	の 右 かい	こよの江垣	.衣小	09400	- 苼啶 行		は読込んた	ビデータを目視	での区別
								のために用い	られるのみ	4	<b>`</b>
							/				$\mathbf{X}$
ASE	)	工事(Sj	ē)								
	層	76-4	軸	層名	フレーム名	軸名	仮名称	設計基礎名	グルーフ゜	\$17°	
1	1	1	101	1	1	101	F001(仮名)		0	直接基礎	
2	1	1	102	1	1	102	F002(仮名)		0	直接基礎	
3	1	1	103	1	1	103	F003(仮名)		0	直接基礎	
4	1	3	101	1	3	101	F004(仮名)		0	直接基礎	
5	1	3	103	1	3	103	F005(仮名)		0	直接基礎	
6	1	4	102	1	4	102	F006(仮名)		0	直接基礎	
7	1	4	103	1	4	103	F007(仮名)		0	直接基礎	
8				•				$ \longrightarrow $		$\smile$	
		L					/	//			
BST-	G の表現	見方法に	よる基礎	歴(支点)の	の						
位置	表示									/	
							BS	ſ−G89TM <b>II</b> か	らデータを	e読み込む時	は、基
					/		礎1	重別について	可の情報で	もないので、	取り敢
_						_	× 7	「全て「直接基	礎」として	読み込まれる	<b>)</b>
	ここに影	と計用の	基礎名為	を入力する	ることにより	、データに		- 二〇三 基礎が有る時に	よ、後述の	4.BST-G8	ЭТМ П
	基礎名	ブレに自	動的に	グループ	分けされる			いた読みしだら	ータの敷	理 (n 21)で	修正を
		一二二口 必述の				~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~				·E (b.21) (	
1	3 T 2 M / 4	A		$I = I = \mathcal{O} U I = \mathcal{O} A$	1 1 カントニュニー	A L T		=3			1
	詳細ば	、仮処り	14 BS	1-G891M	1Ⅱから読:	込んたア	ータの   _ 1	〒う			

メニュー													
↓(E) 編集(E) :	実行(E) 設定(M)												
工事名: ASD邸	新築工事〈S這〉			(SI	単位〉								BSI-G891MIIのケータを読み:
, アイル名: ASD邸	新築工事(S遺)			_									で戸ってきたメイノメーューの
力済み基礎データ	対フト(データ数・!	5)							(BST-G	389TM2からの	は書き入ディーなり	>	
設計基礎名	仮基礎名	· / 層 フレーム	軸 9/7°	Lx(m) L	ູ່ພາງ (ກະວ	(nv)	(@x) (@	v) xŦ					です。
1	F001(仮名)	1 1	101 直接基礎	0	0 2	2	2	2					- / 0
2	F002(仮名)	1 1	102 直接基礎	0	0 2	2	2	2				$  \sim$	
3	F003(仮名)	1 1	103 直接基礎	0	0 2	2	2	2					
4	F004(仮名)	1 3	101 直接基礎	0	0 2	2	2	2					
5	F005(仮名)	1 3	103 直接基礎	0	0 2	2	2	2					
6	F006(仮名)	1 4	102 直接基礎	0	0 2	2	2	2					
1	FUU7(版名)	1 4	103 直接基礎	U	0 2	2	2	2					
0													
10													
10												1	
										[	ca	-	
											終了	The second se	
T-F1(基礎の設計	) ver2.01_02	http://a	sdlab.com	sup	port@asdla	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 rved.	100625	
T-F1 (基礎の設計	-) ver2.01_02	http://a	sdlab.com	sup	port@asdla	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 inved	100625	
:T-F1 (基礎の設計	-) ver2.01_02	http://a	sdlab.com	sup	port@asdla	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 inved.	100625	
T-F1 (基礎の設計	+) ver2.01_02	http://a	sdlab.com	supj	port@asdla	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 irved.	100625	
T-F1 (基礎の設計	t) ver2.01_02	http://a	sdlab.com	supj	port@asdla	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 erved.	100625	
F-F1 (基礎の設計	+) ver2.01_02	http://a	sdlab.com	sup	port@asdla	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 irved.	100625	
T-F1 体現の設計 済み基礎テ	P) ver2.01_02	http://a データ数:	sdlab.com	sup	port@asdla	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 rved	100625	(BST-G89TM2からの読込データ)
T-F1 爆破の設計 済み基礎テ 副計基礎	Piver201_02 *ータリスト(う ター 仮表の	http://a データ数: 韓名	sdlab.com 5)	sup)	port@asdla	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 rved.	(@ <sub>v</sub> v)	(BST-G89TM2からの読込データ)
T-F1 優雄の該計 斉み基礎テ 設計基礎	<sup>2</sup> ータリスト(?) 名 仮基础	http://a データ数: 2 2	sdlab.com 5) 層 기	supp V-A	port@asdla 車 タ	b.com		(C)2010	ASD Laboratory	Allright reser	終了 rved	100625	(BST-G89TM2からの読込テ <sup>、</sup> -5) メモ
T-FI 基礎の設計 済み基礎 設計基礎	Piver201_02 *-クリスト(: 名 仮基で F001(	http://。 データ数: 2 振名) 仮名)	sdlab.com 5) 一層 기 1	supp /	port@asdla	b.com イフ <sup>°</sup> 互接基	礎	(6)2010 L×(m) 0	ASD Laboratory	Allright reser	終7 rved )) (@x) 2 2 2	100625 (@y) 2	(BST-G89TM2からの読込テ <sup>1</sup> -5) メモ
T-FI 基礎の設計 済み基礎 設計基礎	Pres201_02 <sup>2</sup> ータリスト( 名仮基明 F001(	http://。 データ数: 2名 仮名)	sdlab.com 5) 層 기 1	sup 	port@asdla 車由 り 101 這	b.com 们? 百接基	睫	(C)2010 Lx(m) 0	ASD Laboratory	Allright reser	終7 rved. )) (@x) 2 2 2	100625 (@y) 2	(BST-G89TM2からの読込テ <sup>、</sup> -タ) メモ
T-FI <sup>優曜の該計</sup> 斉み基礎テ 設計基礎	Piver201_02 *-タリスト(ま 名 仮基紙 F001(	http://。 データ数: 謹名 仮名)	sdlab.com 5) 5	sup /- <u>4</u> 1	port@asdla <b>軸</b> タ 101 直	b.com 们? 百接基	· 健	(C)2010 Lx(m) 0	ASD Laboratory	Allright reser	終7 rved. )) (@x) 2 2 2	100625 (@y) 2	(BST-G89TM2からの読込テ <sup>、</sup> -タ) メモ
T-F1 堡壘の線射 済み基礎 設計基礎	Piver201_02 *ータリスト( 名 仮基電 F001(	http://a データ数:	sdlab.com 5) 一層 71 1	sup у- <u></u> 1	port@asdla <b>軸</b> タ 101 直	b.com イフ <sup>°</sup> 日接基	<del>陡</del>	(c)2010 Lx(m) 0	ASD Laboratory	Allright reser	終7 rved. ) (@x) 2 2	100625 (@y) 2 2	(BST-G89TM2カッらの読込データ) メモ
T-F1 (後世の)時时 済み基礎 う 設計基礎	<sup>*</sup> ータリスト(- 名 仮基础 F001(	http://a データ数:	sdleb.com 5 ) <u>履</u> 71	зыру у <u>-4</u> 1	port@asdla	b.com イフ <sup>°</sup> 互接基	te -	(c)2010 L×(m) 0	ASD Laboratory	Allright reser	終7 rved. ) (@x) 2 2 2	100625 (@y) 2 2	(BST-G89TM2力vらの)読込テ <sup>-</sup> 物) メモ
TFI爆戦の隙間 済み基礎テ 設計基礎	<sup>*</sup> ータリスト(+ 名 仮基電 F001(	http://。 データ数:	sdleb.com 5 ) <u>層</u> フI 1	supp ノーム 1	port@asdla 軸 タ 101 直 主 に	b.com イフ <sup>°</sup> 互接基	the second secon	(c)2010 Lx(m) 0	ASD Laboratory Ly(m) () 0	Alfright reser	終了 rved )) (@x) 2 2 2	(@y) 2 289TN	(BST-G89TM2からの読込テ~5) メモ MII から読えまれたものの時け
T-FI優璧の顔餅 済み基礎 設計基礎 通常の	<sup>2</sup> ータリスト( 名 <u>仮基</u> 百接入力	http://s データ残か: 第二クダ数: 第二クダ数: 第二クダ数: 第二クダ数: 第二クダ数: 第二クダ数: 第二クダ数:	sdlab.com 5 ) 「層 71 1 <sup>3</sup> 一タのと	supp ノーム 1	port@asdla 軸 り 正 に	<u>イフ<sup>°</sup></u> 王接基	the second secon	(C)2010 Lx(m) 0	ASD Laboratory Ly(m) 0 タが現れ	Allright reser	終7 rved. (@x) 2 2 3ST-C	100625 (@y) 2 G89TN	(BST-G89TM2からの読込テ〜タ) メモ MIIから読込まれたものの時は、
T-FI 僅僅の酸餅 済み基礎テ 設計基礎 通常の の部分	<sup>1)</sup> ver201_02 <sup>2</sup> ータリスト(* 名 仮基町 百接入力 の表示頂	http://s データ数: したデ	sdleb.com 5) 層 71 1 <sup>ビ</sup> ータのと	supp ム 1 ときと、	port@asdla 軸 タ 101 直 主に	b.com イク <sup>*</sup> 互接基	ţ;	(C)2010 Lx(m) 0 デーー	ASD Laboratory Ly(m) ( の タが現れ トゥにま	L Allright reser mx) (ny 2 2 在の B	887 rved 2 2 2 3ST−C	100625 (@y) 2 G89TN	(BST-G89TM2からの読込テ〜カ) メモ MIIから読込まれたものの時は、

このように、基礎データが BST-G89TMIIから読み込んだデータの場合(上図)と通常通り直接入力した場合(下図)では表示内容が違うことがお分かりになったでしょうか。

7	い	痛み基礎データ	リスト(データ	薮:5)									5-	 		)
		設計基礎名	TYP	ax(cm)	ay(cm)	Lx(m)	Ly(m)	(nx)	(ny)	(@x)	(@y)	XE		 	[	
	1	F1	直接基礎	600	600	2400	2400	10	10	200	200					
						直接	入力さ	れた	デー	タの	場合	ì				

**ASD Laboratory** 

- 4. [編集]→{BST-G89TM II から読込んだデータの整理}
  - 4.1 機能

この機能は、VUP02で新たに追加した機能ですが、入力されている基礎データがBST-G89TMIIから読み 込まれたデータの場合にのみ使用できる機能です。

従って VUP02 にバージョンアップしていても、入力されているデータが従来のように直接入力 されたものの場合、この機能は使用できません。

入力されている基礎データが BST-G89TM Ⅱから読み込まれたデータかどうかは、下図の赤線で囲まれた 部分を見れば分かります(BST-G89TM Ⅱからのデータの読み込みは、「3. BST-G89TM Ⅱの計算結果から 支点反力を読み込む」(p.17)を参照してください)。

メインメニ	1-																			Γ					). E	
ファイル(E)	) 編集(E) 9	€行(E) 設定(N	Ø																_		<u> </u>	(の);	部分	124	王目	1
I	事名: ASD 耶爾	所築工事〈S造〉					_	(SI単位)												_	$\geq$		_			
ファイノ	ル名: ASD那種	所築工事(S這)					_												7	~	_					
入力济	âみ基礎データ	リスト(データ数:	5)											(BST	-G89TM	2からの詩	も込データ)	5								
	設計基礎名	仮基礎名	層	76-7	軸	<u> </u>	Lx(m)	Ly(m)	(mx)	(ny)	(@x)	(@y)	) XE													
1		F001(仮名)	1	1	101	直接基礎	0	0	2	2	2	2	2					-								
2		F002(仮名)	1	1	102	直接基礎	0	0	2	2	2	2	!													
3		F003(仮名)	1	1	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2	!													
4		F004(仮名)	1	3	101	直接基礎	0	0	2	2	2	2	!													
5		F005(仮名)	1	3	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2	2													
6		F006(仮名)	1	4	102	直接基礎	0	0	2	2	2	2	2													
7		F007(仮名)	1	4	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2	2													
8																										
9																										
10																										
																		-								
																	終了									
BST-F	F1(基礎の設計)	) ver2.01_02		http://a	sdlab.c	om	s	upport@	asdlab.	com			(C)2010 AS	SD Laborato	ory Allrig	ht reserv	ed.	100625	5							

4.2 グループ化について

BST-G89TM II から読み込んだデータは、そのままでは計算できません。

その理由は

- 1) 読み込んだだけでは「設計用基礎名」が付いていない(仮基礎名はBST-G89TMIIから支点反力を読み込んだとき、順番に付けられた仮の呼称で、設計用の基礎名ではありません)
- 2) 少なくとも基礎のサイズや実際の断面設計に必要なデータで入力されていない項目 のデータが入力されていない

といったことが主な理由です。

これからここで説明するのは、上記の内、主に 1) に関する設定をするためのもので、 BST-G89TM II からデータすを読み込んだら、まずしなければいけない、重要な設定ですので、 必ず行ってください。

ここで行う設定は、先にも書いたように、BST-G89TMⅡから読込んだ支点反力データから、それぞれの支点に基礎としての名前、つまり「設計用基礎名」をつけてグループ化することです。

グループ化とグループ化の後の処理流れは以下のようになります。

- ① BST-G89TM Ⅱから読込んだデータに対して、同じ設計用基礎名を複数の基礎につける ことができます。
- ② タイプ(直接基礎と杭基礎)が違う基礎に同じ設計用基礎名をつけることはできません。

**ASD Laboratory** 

つまり、同じグループの基礎とすることはできません。

- ③ 同じ設計用基礎名が付けられた基礎は、以降同じグループの基礎として扱われます。
- ④ 同じグループの基礎は、応力以外の石灰条件に関するデータは、全て同じ値を共有する こととなります。
- ⑤ 従って、個別に基礎の詳細データを入力したり(例えば基礎サイズ等)、また入力済みの データを変更した場合、その基礎の応力を除く全ての設定値、設計条件は、自動的に 同じグループの全ての基礎にも書き込まれ、更新されます。
- ⑥ 基礎の断面設計は、グループ化に関係なく、一度全ての基礎に対して行われますが、最終的に出力されるのは、グループ毎に最も不利な条件となっているものを1つだけ出力します。

勿論、自動的に読み込んだ支点データ全てに違う「設計用基礎名」をつけて、全基礎の計算 と出力をすることもできます。

それでは{BST-G89TMⅡから読込んだデータの整理}で「設計用基礎名」をつけ、そしてグループ化する、ということがお分かりいただけたと思いますので、操作の実際に移ります。

4.3 操作

では BST-G89TMⅡから支点反力データが読み込まれた状態から「データの整理」についての説明をします。

本書 16 ページの「2.BST-G89TMIの計算結果から支点反力を読み込む」で、データを読み込みに付いて説明してますが、ここでの説明は、その読み込み終了後の画面からはじめます。

BST-G89TMIIからデータを読み込んだ直後なので「仮基礎名」は表示されていますが、まだ「設計用基礎 名」は空欄のままです。

これから「設計用基礎名」を入力し、データをグループ分けする作業をしてゆきます。

<b>メインメニュー</b> ファイル(E) 編集(E) 実行(E) 設定	(M)											この画
工事名: ASD郎新築工事(S)造 ファイル名: ASD郎新築工事(S)造	)					(SI単位)						
入力済み基礎データリスト(データ	數:5)										(BST-G89TM2からの読込データ)	
設計基礎名 仮基礎名	層	76-4	軸	\$イフ°	Lx(m)	Ly(m)	(nx)	(ny)	(@x)	(@y)	×E 🕹	
1 F001(仮名)	1	1	101	直接基礎	0	0	2	2	2	2	<b>_</b>	
2 F002(仮名)	1	1	102	直接基礎	0	0	2	2	2	2		
3 F003(仮名)	1	1	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2		
	1	3	101	直接基礎	0	0	2	2	2	2		
5 F005(仮名)	1	3	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2		
6 F006(仮名)	1	4	102	直接基礎	0	0	2	2	2	2		
7 F007((5名) 9 10	1	4	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2		
BST-G89TM II カ 後なので「設計用 る つまり、まだグルー	、 らデ  基礎 ープ分	ータ 名」 けさ	を詰	売み〕 ご欄に てない	<u>入</u> ん なっ	だ直てい	Ē	.com	[		(C)2010 ASD Laboratory Allright reserved. 100625	

この画面から、

メインメニ	<b>.</b>	_						
ファイル(E)	)	編集(E)	実行(E)	設定(M	)			
	+	工事名	・ファイル名の	)修正				
∘⊥ ا∕د⊂⊂	<b>₽</b>	新規独	立フーチング	)基礎の〕	自加	С	trl+F1	
2040	~  -	<u></u> 新規杭	基礎の追加	0		C	trl+F2	_
入力流	寄∂ ■:	選択中 全データ	のデータを肖 娋川余	₩徐				<u>ل</u> م
1	F	BST-G	89TMI から	5読込んな	<u>ጀታ ነ</u> - አወያ	整理		语
2	F1		F002 (	反名)	1	1	102	直接
3	F1		F003((	反名)	1	1	103	直接

メニューで、[編集]→{ BST-G89TM Ⅱ のデ ータを読込む}と進み、クリックします。

作業画面が表示されます。

作業画面が表示されます。

ここで画面の説明をしておきます。



4.3.1 基礎の荷重状態が知りたい時

各基礎の荷重状態(支点反力)が知りたい時の操作を説明します。

a. 一つの基礎の荷重状態の表示



WITH 10-100 10-10 10000 10-100000 10-100000 10-100000 10-1000000 10-1000000 10-1000000 10-1000000 10-10000000 10-10000000 10-10000000 10-10000000 10-10000000 10-10000000 10-10000000 10-10000000 10-100000000	sт	003																				
Image: Normal State Sta	SD.	邸新築	「工事(Sid	5)																		
1       1       101       1       101 <th>1</th> <th>層</th> <th>71-4</th> <th>軸</th> <th>層名</th> <th>フレーム名</th> <th>軸名</th> <th>仮名</th> <th>称</th> <th>設計基礎名</th> <th>ゲルーフ°</th> <th>\$17°</th> <th>Т</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>	1	層	71-4	軸	層名	フレーム名	軸名	仮名	称	設計基礎名	ゲルーフ°	\$17°	Т									
2       1       1       102       1       1       102       1       1       102       1       1       102       1       1       102       1       1       102       10       1       1       10	1	1	1	101	1	1	101	F001 (			0	直接基礎	ŧ	選択を削	解除	1				表示され	れた荷	重内訓
2       1       100       1       00000620       0       318800         3       0       100 </td <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>102</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>102</td> <td>F002(</td> <td>仮名)</td> <td></td> <td>0</td> <td>直接基礎</td> <td>¥ –</td> <td></td> <td></td> <td>_</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>611-2-1</td> <td>- 7 n+ )_</td> <td>L .</td>	2	1	1	102	1	1	102	F002(	仮名)		0	直接基礎	¥ –			_				611-2-1	- 7 n+ )_	L .
4       1       0       101 <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>103</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>103</td> <td>F003(</td> <td>仮名)</td> <td></td> <td>0</td> <td>直接基礎</td> <td>ŧ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>クリノラ</td> <td>る時に</td> <td>1,</td>	3	1	1	103	1	1	103	F003(	仮名)		0	直接基礎	ŧ							クリノラ	る時に	1,
1       1	1	1	3	101	1	3	101	F004(	仮名)		0	直接基礎	ŧ									
1         4         102         1         4         102         100         000	5	1	3	103	1	3	103	F005(	阪名)		0	直接基礎	ŧ									
2       1       4       103       1       4       103       1       4       103       1       4       103       1       4       103       1       4       103       1       4       103       1       4       103       1       4       103       1       4       103       1	6	1	4	102	1	4	102	F006(	仮名)		0	直接基礎	ŧ									
3       -	7	1	4	103	1	4	103	F007(	仮名)		0	直接基礎	ŧ									
0       0	3													グルーフ	۳Ŀ	1						
0       1	9															1						
Table Web         Yr         Y	0													ケルーフ制	解除				Г			
Ref         Bit Net/Ex         Y/7         WE         N         H         N         N	荷	重内訳	凌表示	1																〈クリア〉	ボタンを	シクリック
10         10         10         10         10         M         M         N         H         M         N <td>1-1</td> <td><u>+</u>, 1847</td> <td>(Cathr</td> <td></td> <td>(4)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	1-1	<u>+</u> , 1847	(Cathr															(4)				
I F02/06/20       IIII BIE IIII IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII		仮名	名称	設計基	礎名	\$17°	荷重	N	Н	M	1	1	Н	М		$\sim$		Š	_			
2 2 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1	F002(	(仮名)		直	[接基礎	L	304.175	-3.508	79 0	304	175 20	0.0728	0			7-1	T				
B         Image: B         S         Tubics - UNE(84)         U         U         Tubics - UNE(84)         U         Tubics - UNE(84)         U <thu< th=""> <thu< th="">         U</thu<></thu<>	2						E	21.174	-132.3	85 0	-34.1	1818 -32	2.2572	0		-	h					
Image: state         Image: state<	3						S	19.5126	-0.0813	874 0	19.5	126 -0.7	/74325	0	_							
B         I <thi< th=""> <thi< th=""> <thi< th=""> <thi< th=""></thi<></thi<></thi<></thi<>	<del>1</del>						W1	-6.25025	-24.52	34 0	-16.4	1318 -3.	07466	0								
Image: state stat	0						W2	-14.0561	24.852	22 0	-10.4	414 3.0	u/466	U	_							
Image: state stat																						
kr         str         st	_														_							
BYT         Strongertut polsiziolat 28 selution 2 sul y li         Scrongertut polsiziolat 28 selution 2 sul y li         Strongertut polsiziolat 28 selution 2 sul y li       Strongertut polsiziolat 2 sul y li         Strongertut polsiziolat 28 selution 2 sul y li       Strongertut polsiziolat 2 sul y li       Strongertut polsiziolat 2 sul y li         Strongertut polsiziolat 28 selution 2 sul y li       Strongertut polsiziolat 2 sul y li       Strongertut polsiziolat 2 sul y li         Strongertut polsiziolat 2 sul y li       Strogertut polsiziolat 2 sul y li       Strogert	_														_							
ST-089THI 1から込込んだ基礎協会の支点リスト       SOUTHEAT PS(52)       1     1    1	_																					
br       ST-GB0*IM IP 652.64.67 & BEURG 05 & AU,1       Image: Colspan="2" (Colspan="2")        <																						
Image: Normal System         Number System         N	ST	-689	TMID	ら読x	しんだ基	壁位置の	支点リ	2.1	_				_		_	終	7		<ul><li></li></ul>			
1       1       101       1       101 <th>ST.</th> <th>-G89 邸新築</th> <th><b>TMIか</b> 紅事(S道</th> <th>ら読む 5)</th> <th>しんだ基</th> <th>慶位置の</th> <th>支点リ</th> <th>21</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>_</th> <th></th> <th>_</th> <th>終 </th> <th>7</th> <th></th> <th>&lt;</th> <th></th> <th></th> <th></th>	ST.	-G89 邸新築	<b>TMIか</b> 紅事(S道	ら読む 5)	しんだ基	慶位置の	支点リ	21					_		_	終 	7		<			
2       1       1       102       1       1       102       F002(KA)       0       ēHĀEQ         4       1       30       101       1       30       101       10       F003(KA)       0       ēHĀEQ         5       1       3       103       1       3       101       F003(KA)       0       ēHĀEQ         6       1       4       102       1       4       102       F003(KA)       0       ēHĀEQ         6       1       4       102       1       4       102       F006(KA)       0       ēHĀEQ         7       1       4       103       1       4       103       F007(KA)       0       ēHĀEQ         9       -       -       -       -       -       -       -       -       -         10       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -         11       -	SD.	-G89 邸新築 層	<b>TMIか</b> 紅事(S述 ] フレーム ]	ら読む 記 軸	<b>しんだ基</b> 暦名	<b>壁位置の</b> フレーム名	<b>支点リ</b> . ■ 4	<b>スト</b>	称 ]!!	設計基礎名		\$ፈን.				終 	7		3			
3       1       1       103       1       1       103       F003(%Å)       0       ট Řěču         4       1       3       101       1       33       101       F004(%Å)       0       ট Řěču         5       1       3       103       103       106(%Å)       0       ট Řěču         7       1       4       102       1       4       103       F007(%Å)       0       ট Řěču         3       0       1       4       103       107       F007(%Å)       0       ট Řěču         3       0       1       4       103       F007(%Å)       0       ট Řěču       0       ট Řěču         3       1       4       103       F007(%Å)       0       ট Řěču       0       -       -         3       1       1       1       1       1       1       1       1       0       -       -         3       1 <td< td=""><td>SD.</td><td>-G89 邸新築 層 1</td><td><b>アMIか</b> 証事(S道 フレーム 1</td><td>ち読え 記 軸 101</td><td><b>しんだ基</b> 暦名</td><td><b>産位置の</b> フレーム名 1</td><td><b>支点リ</b>. 軸名 101</td><td>スト 仮名 F001 (f</td><td>.称</td><td>設計基礎名</td><td><u>ケッルーフ。</u> 0</td><td>タイフ<sup>°</sup> 直接基礎</td><td>ŧ.</td><td>選択を調</td><td> 砰D余</td><td>終 </td><td>7</td><td></td><td>3</td><td></td><td></td><td></td></td<>	SD.	-G89 邸新築 層 1	<b>アMIか</b> 証事(S道 フレーム 1	ち読え 記 軸 101	<b>しんだ基</b> 暦名	<b>産位置の</b> フレーム名 1	<b>支点リ</b> . 軸名 101	スト 仮名 F001 (f	.称	設計基礎名	<u>ケッルーフ。</u> 0	タイフ <sup>°</sup> 直接基礎	ŧ.	選択を調	 砰D余	終 	7		3			
4       1       3       101       1       3       101       1       3       101       F004(6x2)       0       直接基键         5       1       4       102       1       4       102       F005(6x2)       0       直接基键         7       1       4       103       1       4       103       F007(6x2)       0       直接基键         9       1       4       103       1       4       103       F007(6x2)       0       直接基键         9       1       4       103       1       4       103       F007(6x2)       0       直接基键         9       1       4       103       F007(6x2)       0       直接基键       /////       //////       //////       /////       //////       /////       /////       /////       /////       //////       /////       //////       /////       /////       //////       //////       //////       ////	SD	- <b>G89</b> 邸新築 層 1	<b>TMIか</b> S工事(S波 フレーム 1 1	ら読び 動 101	<mark>しんだ基</mark> 暦名 1 1	<b>産位置の</b> フレーム名 1 1	<b>支点リ</b> 軸名 101 102	スト 仮名 F001 (f F002 (f	.称 [] 版名) 版名)	設計基礎名	クジルーフ* 0 0	タイフ <sup>の</sup> 直接基礎 直接基礎		選択を削	 译序余	終 	7		3			
5       1       3       103       103       F005 (原名)       0       直接基礎         7       1       4       102       1       4       102       F006 (原名)       0       直接基礎         7       1       4       103       1       4       103       F007 (原名)       0       直接基礎         7       1       4       103       1       4       103       F007 (原名)       0       直接基礎         7       1       4       103       F007 (原名)       0       直接基礎       ////////////////////////////////////	SD SD	-G89 邸新築 月 1 1 1	<b>TMIか</b> 王事(S道 フレーム 1 1 1	ら読え シ 軸 101 102 103	CAだ基 層名 1 1 1	<b>壁位置の</b> 7レーム名 1 1 1	<b>支点リ</b> 軸名 101 102 103	スト 仮名 F001 (( F002 (f F003 (f	·称 [1] 仮名) 仮名)	設計基礎名	クジルーフ* 0 0 0	外7° 直接基礎 直接基礎		選択を開	 译除余	終 	7		3			
6       1       4       102       1       4       102       F006(仮名)       0       直接基礎         7       1       4       103       1       4       103       F007(仮名)       0       直接基礎         9       0       0       0       0       0       0       0       0       0       0         0       0       0       0       0       0       0       0       0       0       0       0       0         0	SD.	- <b>G89</b> 邸新築 <u>層</u> 1 1 1 1	<b>PTMIか</b> 至工事(S道 フレーム 1 1 1 3	<b>ら読</b> 返 割 101 102 103 101	<b>居名</b> 1 1 1 1 1	<b>壁位置の</b> フルーム名 1 1 1 3	<b>支点リ</b> 101 102 103 101	スト 仮名 F001() F002() F003() F004()	.称 []. 版名) 仮名) 仮名) 仮名) 仮名)	設計基礎名	クジルーフ* 0 0 0 0	タイフ° 直接基礎 直接基礎 直接基礎		選択を制	 译序余	終 	7					
$ \begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $	SD.	-G89 邸新築 層 1 1 1 1 1	<b>PTMIか</b> 王事(S道 フレーム) 1 1 1 3 3 3	ち読び 101 102 103 101 103	<b>暦</b> 名 1 1 1 1 1	などのでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、また	<b>支点リ</b> 101 102 103 101 103	スト 「仮名 F001 (( F002 () F003 () F004 () F004 ()	·称 [11] 仮名) 仮名) 仮名) 仮名) 反名)	設計基礎名	ク <sup>*</sup> ルーフ <sup>*</sup> 0 0 0 0 0	9(7° 直接基礎 直接基礎 直接基礎 直接基礎		選択を開	 译印余	終 	7		3			
3       -	ST SD 1 2 3 4 5 6	-G89 邸新築 月 1 1 1 1 1 1 1	<b>TMIか</b> 王事(S道 フレーム 1 1 1 3 3 4	ら読む 動 101 102 103 101 103 102	Not 基本 層名 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>壁位まの</b> 7ルーム名 1 1 1 3 3 4	<b>支点リ</b> 101 102 103 101 103 101	スト F001 ( F002 ( F003 () F004 () F005 () F006 ()	·称 [11] 版名) 版名) 版名) 版名) 版名) 版名) 反名)	設計基礎名	ク <sup>*</sup> ルーフ <sup>*</sup> 0 0 0 0 0 0 0	9/7° 直接基礎 直接基礎 直接基礎 直接基礎 直接基礎		選択を削	 译B余	終 	7					
3       0	SD SD 2 3 4 5 5 7	- <b>G89</b> 邸新築 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>アトロ II か</b> S工事(S送 フレーム 1 1 1 1 3 3 4 4 4	<b>5 読</b> 並 到 101 102 103 101 103 102 103	R名 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>壁位置の</b> 7ルーム名 1 1 1 3 3 4 4 4	<b>支点リ</b> 101 102 103 101 103 102 103	スト F001 () F002 () F003 () F004 () F005 () F006 () F006 ()	新 版名 版 版名 ) 版 名 ) 版 名 ) 版 名 ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	設計基礎名	グルーフ <sup>*</sup> 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	9/7° 直接基礎 直接基礎 直接基礎 直接基礎 直接基礎 直接基礎		選択を削	 译序余	終 	7		3			
0     0<	SD. 2 3 4 5 5 3	-G89 邸新築 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>TMIか</b> 王事(S道 フレーム 1 1 1 3 3 4 4 4	<b>5 読</b> 道	R名 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>壁位置の</b> フレーム名 1 1 1 3 3 4 4 4	<b>支点リ</b> 101 102 103 101 103 102 103	仮名           F001(j           F002(j           F003(j           F004(j           F005(j           F006(j           F007(j	新 仮 反反反反 反反 反 の 名) 反 の 名) 反 の 名) の の 名)	設計基礎名	グルーフ <sup>。</sup> 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	9(7) <sup>6</sup> 直接接基礎 直直接接基礎 這直接接基礎 這直接基礎 這		選択を削	¥除	終 	7		3			
前重小説を表示       仮名称       設計基礎名       9/17°       前重       N       H       M       N       H       M       OUT       OUT       OUT         2       - <td< td=""><td>SD SD 2 3 4 5 5 6 7 3 9</td><td>-<b>G89</b> 耶新築 層 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td><td><b>TMIか</b> 王事(S道 フレーム 1 1 1 3 3 4 4 4</td><td><b>5 読</b>道</td><td>R名 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td><td><b>壁位置の</b> 1 1 1 3 3 4 4</td><td><b>支点リ</b> 101 102 103 101 103 102 103</td><td>スト F001() F002() F003() F004() F005() F006() F007()</td><td>新 100 版名) 版名) 版名) 版名) 版名) 版名) 版名)</td><td>設計基礎名</td><td>ク<sup>*</sup>ルーフ* 0 0 0 0 0 0 0</td><td>9(7) 直接接基礎 直接接基礎 直直接接基礎 這 直接基礎 這</td><td></td><td>選択を削 りルーフ</td><td>遅防余 『上</td><td>終 </td><td>7</td><td></td><td>&lt;</td><td></td><td></td><td></td></td<>	SD SD 2 3 4 5 5 6 7 3 9	- <b>G89</b> 耶新築 層 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>TMIか</b> 王事(S道 フレーム 1 1 1 3 3 4 4 4	<b>5 読</b> 道	R名 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>壁位置の</b> 1 1 1 3 3 4 4	<b>支点リ</b> 101 102 103 101 103 102 103	スト F001() F002() F003() F004() F005() F006() F007()	新 100 版名) 版名) 版名) 版名) 版名) 版名) 版名)	設計基礎名	ク <sup>*</sup> ルーフ* 0 0 0 0 0 0 0	9(7) 直接接基礎 直接接基礎 直直接接基礎 這 直接基礎 這		選択を削 りルーフ	遅防余 『上	終 	7		<			
仮名称         設計基礎名         9(7°)         節重         N         H         M         H         M         F         M/F         M/F         M/F           1         -	ST SD 2 3 4 5 5 7 3 9 0	-G89 邸新築 層 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>TMIか</b> 王事(S波 1 1 1 3 3 4 4	<b>6 読</b> 道	<u>屠名</u> 1 1 1 1 1 1 1 1	#位置の フレーム名 1 1 1 3 3 3 4 4 4	<b>支点</b> 9. 101 102 103 101 103 102 103	スト 「仮名 F001() F002() F003() F004() F005() F005() F005() F007()	新 版名) 反名) 反名) 反名) 反名) 反名) 反名) 反名) 反	設計基礎名	グルーフ <sup>。</sup> 0 0 0 0 0 0 0	9/7° 直接基礎 直接接基礎 直接接基礎 直接接基礎 直接基礎 動		選択を削 りルーフ りルーフア	¥B\$	終 	7		2			
1     1<	SD SD 2 3 4 5 5 6 7 3 9 0	-G89 邸新築 1 1 1 1 1 1 1 1	TMIか TT事(S述 1 1 3 3 4 4 4	<b>5 読</b> 说 軸 101 102 103 101 103 102 103	<b>暦</b> 名 1 1 1 1 1 1 1	単位まの フレーム名 1 1 1 3 3 3 4 4 4	<b>支点り</b> . 101 102 103 101 103 102 103	スト F001( F002( F003( F004( F005( F006( F007(	森 仮名 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	設計基礎名	クルーフ° 0 0 0 0 0 0 0	9/7° 直接基基 直接接基基 直接接基础。 直接接基础。 道 直接基础。 道		選択を削 りルーフ P	¥В; ¥В;		7		₹			
2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	SD SD 2 3 3 7 3 9 0	-G89 邸新築 層 1 1 1 1 1 1 1 1 1 ( ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( の 4) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ) ( ) ) ) )	TMID TT 事(S) 1 1 1 3 3 4 4 4 4 で表示	<b>ら読</b> 業 動 101 102 103 101 103 103 103 103 103 103	<b>居名</b> <b>居名</b> 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	単位置の フレーム名 1 1 1 3 3 3 4 4 4 4	<b>支点リ</b> <b>軸名</b> 101 102 103 101 103 102 103 103 103 103 104 105 105 105 105 105 105 105 105	スト F001() F002() F003() F004() F005() F006() F007()	称 仮名 板石名 板石名 板石名 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 板石名 して、 のの、 板石名 して、 のの、 のの、 のる して、 のの、 のの、 のる して、 のの、 のの、 のの、 のの、 のの、 のの、 のの、 の	設計基礎名	ク <sup>*</sup> ルーフ <sup>*</sup> 0 0 0 0 0 0	9/7° 直接基礎 直接接基礎 直接接基礎 直直接基礎 電		選択を削 り <sup>ら</sup> ルーフ <sup>つ</sup>	۳٤           ۳٤           ۳٤		7					
3	ST SD 2 3 4 5 5 5 7 3 9 0	-G89 耶新築 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	TMIか 王事(S達 フレーム) 1 1 1 1 3 3 4 4 4 8 で表示	<ul> <li>ら読む</li> <li>申申</li> <li>101</li> <li>102</li> <li>103</li> <li>101</li> <li>103</li> <li>102</li> <li>103</li> </ul>	<u>層名</u> 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	などのでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、また	<b>支点リ</b> 101 102 103 101 103 103 103	スト 「仮名 F001() F002() F003() F004() F005() F005() F006() F007() N	称 仮名) 仮反名) 反反名) 反反名) 反反名) 日	設計基礎名 	5°µ-7° 0 0 0 0 0 0 0	タイフ <sup>2</sup> 直接基礎 直接接基礎 直接接基礎 直接接基礎 動 直接基礎		選択を削 りルーフ りルーフ第 <u>M</u>	¥k ¥k		7		<			
4       -	ST SD 2 3 4 5 5 6 7 3 9 9 0 1	-G89 耶新築 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 ( ( ( ) ( ) ( ) (	<b>TMIか</b> 王事(S達 1 1 1 3 4 4 4 8 弦表示	<b>ら読</b> 道 動 101 102 103 101 103 103 103 103 103 103	KAだ基     P     P     P     C	<b>建位まの</b> フレーム名 1 1 1 3 3 4 4 4 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	<b>支点り</b> . 101 102 103 101 103 102 103	スト 「仮名 F001() F002() F003() F005() F005() F005() F007() N	森称 23 本 23 本 25 本	設計基礎名 	ク*ルーフ* 0 0 0 0 0 0 0 0	タイフ <sup>2</sup> 直接基本 直直接基本 基本 基本 基本 基本 基 数 基 数 基 数 基 数 数 数 5 3 5 3 5 3 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5		選択を削 りルーフ M	¥除 ¥ ¥ ¥ ¥ ¥ ¥ ¥	終 	7			クリアさ	nた	
5	ST SD 2 3 1 5 5 6 7 7 3 9 0	-G89 邸新範 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	TMIか 王事(S達 フレーム) 1 1 1 1 3 3 4 4 4 4 8 で 法 、 で で の で の で い の の の の し し し し の の の の の の の の の の の	5 読	<u> 屠名</u> 一 屠名 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>建位置の</b> フレーム名 1 1 1 3 3 4 4 4 タイフ <sup>*</sup>	<b>支点り</b> . 101 102 103 101 103 102 103	スト 「仮名 F001() F002() F005() F005() F005() F007() N	森称 ○ 1 一 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万	設計基礎名				選択を削 りルーフ M	ŸE ¥P¢		7			クリアさ	れた	
6 A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	ST SD 2 3 4 5 5 6 7 7 3 9 0 0	-G89 部新範 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 ( 広 3 ( 広 3	TMIか 工事(Sit フレーム) 1 1 1 1 3 3 4 4 4 4 3 3 4 4 3 3 4 4 3 3 4 4 3 3 2 8 次 で 数 で 、 の で の の の の の の の の の の の の の の の の	5 読	<u>屠名</u> 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>壁位置の</b> フレーム名 1 1 1 3 3 4 4 4 タイフ <sup>e</sup>	<b>支点</b> 9 101 102 103 101 103 102 103 102 103	スト 「仮名 F001() F002() F005() F005() F005() F007() N	称反名) 反石名) 反石名) 反石名) 反石名) 反石名) の万石名) 日 一 日 一 日 一 日 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	設計基礎名	クジルーフ* 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	タイフ <sup>2</sup> 直接基本 直接接基础。 直接基本。 直接基本。 。		選択を用 りルーフ り M	¥除 ¥除		7			クリアさ	れた	
7 8 9 10 終7	ST SD 2 3 4 5 5 6 7 7 3 9 0 0 7 3 9 0 0	-G89 邸新錢 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 ( ( ( ( ) ( ) ( )	TMIか 工事(S) フレーム 1 1 1 1 3 3 4 4 4 4 4 次 で表示	<b>ら読</b> 込 動 101 102 103 101 103 102 103 103 102 103	<u>屠名</u> 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>壁位置の</b> 1 1 1 3 3 4 4 4	<b>支点</b> 9 101 102 103 101 103 102 103 102 103	スト 「仮名 F001() F002() F003() F005() F005() F005() F007() N	称 反名) 反 石名) 反 石名) 反 石名) の 反 石名) の 反 石名) の 反 石名) 一 日 - - - - - - - - - - - - -	設計基礎名	クジルーフ* 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	タイフ <sup>2</sup> 直接基本 直接接基本。 直接基本。 直接基本。 。		選択を用 りルーフ りルーフ第 M	¥۵¢		7			クリアさ	れた	
8	ST SD 2 3 4 5 5 7 3 9 0 0 1 2 2 3 4 4 5 5 6	-G89 部新築 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 ( ( ( ) 4 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	TMIか 工事(S) フレーム」 1 1 1 1 3 3 4 4 4 4 3 、 ス 称 国	<b>ら読</b> 込 車 101 102 103 101 103 102 103 102 103 102 103	<u>屠名</u> 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>壁位置の</b> 1 1 1 3 3 4 4 4 4	<b>支点</b> 101 102 103 101 102 103 102 103	スト 「仮名 F001() F002() F005() F005() F005() F007() N	称 反名) 反 反 反 反 反 反 反 反 の ( 反 反 反 反 の ( の 反 反 名) 反 反 名) 区 ( ) 区 ( ) 〇 (	設計基礎名	クジルーフ・ 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	タイプ 直接基基 直接接基基礎 直接基基礎		選択を用 クルーフ クルーフ第 M	¥۵¢ ¥۵¢		7			クリアさ	れた	
9	ST SD 2 3 4 5 5 6 7 3 9 0 0 7 3 9 0 0	-G89 邮新範 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	PTMIか TT事(S) フレーム」 1 1 1 1 1 3 3 4 4 4 そ 次 で 表示 で 次 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	<b>ら読</b> 込 車 101 102 103 101 103 102 103 03 03 03 03 03 03 03 03 03	<b>層名</b> 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ぜ 位 まの	<b>支 点 9</b> 101 102 103 101 103 102 103	スト 「仮名 F001() F002() F003() F005() F005() F005() F005() F005() F007() N	称 名名) 反反名) 反反名2 の反反名2 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 の反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反名2 して、 のの反反ののののののののののののののののののののののののののののののののの	岐計基礎名				選択を削 ケルーフ クルーフ第 M	¥B¢ ¥B¢		7			クリアさ	nた	
10 終了	ST SD 3 4 5 6 7 3 9 0 0 7 3 3 9 0 0	-G899 耶新範 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>アTMIか</b> 王事(S) フレーム 1 1 1 1 1 3 3 4 4 4 そ そ で 表示 こ 名称 「	<b>ら読</b> 込 車 101 102 103 101 103 102 103 03 ③計基	<b>層名</b> 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>壁位まの</b> 1 1 1 3 3 4 4 4 4 9 4	支点リ 101 102 103 101 103 102 103	スト F001( F003( F003( F005( F005( F005( F005( F007( N	本称 名名) 反反反 (反) 反反反 (反) 反反反 (反) (本) (-)	設計基礎名		タイフ・ 直直直直直直接基基 直直接接基基 は 直接接基基 は は 日 接 日 接 接 基 基 は し 直 接 接 基 基 し 直 直 接 接 基 基 し 直 直 接 接 基 基 、 一 換 接 基 基 、 一 換 接 基 基 、 一 の 接 法 基 基 二 の 換 接 基 二 二 の 換 注 の 一 換 合 換 合 の 協 合 の 協 の 一 の に の 日 の 一 の 日 の 日 の 日 の 日 の 日 の 日 の 日 の 日		選択を削 ゲルーフ ケルーフ第 M	¥除 ¥除		7			クリアさ	nた	
終了	SSD SSD 2 2 3 3 4 4 5 5 5 3 7 7 3 9 0 0 7 7 3 3 7 7 3 3 9 9 0	-G89 昭新範 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 ( ( ( 3 4) ( ( 3 4) ( 5) ( 5) ( 5) ( 5) ( 5) ( 5) ( 5) (	PTMIか TT事(S) 1 1 1 1 3 3 4 4 4 4 名称 「	<b>6 読</b> 道 101 102 103 101 103 102 103 001 001 001 001 001 001 001	人格を基準 目1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	なけて*	支点9. 101 102 103 101 103 102 103 103	スト 「F001() F003() F003() F003() F005() F005() F007() N	本称 名 一 次 万 名 一 次 万 名 一 次 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万 万		<sup>3</sup> γμ-7° 0	ダイフ     「     直接基礎     直接基礎     電     直接     接基基     電     福祉     福祉		選択を削 グルーフ グルーフ 第 M	¥k ¥k		7			クリアさ	nた	
1 5%	<b>ST</b> SD SD 子 3 3 3 7 3 3 9 0 0 荷 7 7 3 3 9 0 0	-G89 耶新範 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 ( ( 7 4) ( 7) ( 7) ( 7) ( 7) ( 7) ( 7)	PTMIか 王事(S) フレーム 1 1 1 1 3 3 4 4 4 4 名称 三 名称 三 名称	ら読ジ	人の定基     1 <td>2 位まの フレーム名 1 1 1 3 3 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4</td> <td>支点9 101 102 103 101 103 102 103</td> <td>スト F001( F003( F003( F004( F005( F005( F007( N</td> <td>本称 石 名) 反 反 石 名) 反 反 石 名) 日 石 石 名 日 石 石 名 日 石 石 石 名 日 石 石 石 石 日 石 石 石 日 石 石 石 日 石 石 日 石 石 日 石 石 日 石</td> <td>設計基礎名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>選択を削 グルーフ りルーフ等</td> <td>¥k ¥k</td> <td></td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td>クリアさ</td> <td>nた</td> <td></td>	2 位まの フレーム名 1 1 1 3 3 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	支点9 101 102 103 101 103 102 103	スト F001( F003( F003( F004( F005( F005( F007( N	本称 石 名) 反 反 石 名) 反 反 石 名) 日 石 石 名 日 石 石 名 日 石 石 石 名 日 石 石 石 石 日 石 石 石 日 石 石 石 日 石 石 日 石 石 日 石 石 日 石	設計基礎名				選択を削 グルーフ りルーフ等	¥k ¥k		7			クリアさ	nた	
	ST SD SD 2 3 3 4 4 5 5 6 7 7 3 3 9 9 0 0 7 7 3 3 9 9 0 0	-G89 耶新築 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 (万才	PTMIか TT事(S) フレーム 1 1 1 1 1 3 3 4 4 4 4 名称 二	5 読ジ	KAだ基      「     「     「     「     「     「     「     「     「     「     「     「     「     「     「     「     「     」     「     」     「     」     「     」     「     」     「     」     」     」     」     」     」     」     」     』	2 Ú a do	支点リ 101 102 103 101 103 102 103	スト 「 F001 () F002 () F003 () F004 () F005 () F006 () F007 () N	- 新 不 名 2 3 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	設計基礎名	ゲルーフ*	<u> 夕(7)*</u> 直接基基礎 直直接基基礎 直直接基基礎 個 直 直接 基基礎 個 目 目 目 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日		選択を削 グルーフ クルーフア			7			クリアさ	nた	
	SSD SD 1 2 3 3 4 4 5 5 6 7 7 3 9 9 0 0 7 7 3 3 9 9 0 0	-G89 耶新築 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	TMIか 王事(S達 フレーム) 1 1 1 1 3 3 4 4 4 4 8 花表示 名称 i	ら読ジ	人んだ基準 111111111111111111111111111111111111	71-48         1         1         3         3         4         4         4         4         4         4         4         4         4         4         4         4         4         5         6         6         6         6         7         6         6         7         6         6         6         7         6         7	支点リ 101 102 103 101 103 102 103 102 103	スト F001 (( F002 () F003 () F004 () F005 () F006 () F007 () N	本称 2名) 反反名 反反名 の反反 の の の の の の の の	設計基礎名		<u> </u>		選択を削 ケルーフ クルーフや M			7			クリアさ	nた	

b. 複数行の基礎の荷重状態をまとめて表示

ここでは表示例として、3行目から5行目までの3行分の基礎の荷重状態を表示してみます。



4.3.2 設計用基礎名をつける

a. 一つまたは複数の基礎に(まとめて)設計用基礎名をつける

次は、設計用基礎名(以下、基礎名とします)を付けて、BST-G89TM Ⅱから読み込ん だデータをグループ化します。

説明は、2行目から5行目までの4つの基礎に「F1」という基礎名をつける操作で説明します。



基礎名・基礎タイプ					
基礎名を入力し、基礎タイプを 入力された基礎名と同じものが 当該基礎は、その基礎と同じ	結定てください が、既に他の基礎で使用されてし がループとして認識されます	ここに基礎名な 入力する	ŧ	すると、基礎名 が表示されます	・基礎タイプを入力する画面 -。
基礎名 - <del>基礎のタイプ</del> ・ 直接基礎		ここで基礎タ プを指定する	1	ここでは基礎名 プを指定するこ	A(設計用基礎名)と基礎タイ とができます。
○ 杭基礎				ここでは基礎名	よとして「F1」を入力します。
基礎名・基礎タイプ           基礎名を入力し、基礎タイプ           入力された基礎名と同じもの、           当該基礎は、その基礎と同じ           基礎名	著指定てください が、既に他の基礎で使用されてい がループとして認識されます。	る場合は、	基礎: する	名として「F1」と入力	
基礎のタイプー	基礎名・基礎タイプ				
○ 直接臺幅 ○ 杭基礎	基礎名を入力し、基礎タイ 入力された基礎名と同じも 当該基礎は、その基礎と同	プを指定てください のが、既に他の基礎で使 しじグループとして認識され	■thrust 基礎タ	☆u イプは「直接基	
	基礎名  F1		礎」のま	ŧ	〈登録〉ボタンをクリックす
	- 基礎のタイプ ◎ 直接基礎 ○ 杭基礎			2 +t/セル 登録	3

指定した範囲の基礎名が「F1」になり、グループ番号が「1」のなっているのを確認してください。

BST	-G89	тм∎д	ら読え	んだ基	花位 置の 三	支点リス	ŀ						
ASD	邸新築	工事(S)	造)										
	層	76-4	軸	層名	フレーム名	軸名	仮名称	設計基礎名	グルーフ゜	\$17°			
1	1	1	101	1	1	101	F001(仮名)		0	直接基礎	選択を削	窷	
2	1	1	102	1	1	102	F002(仮名)	F1		直接基礎	J		
3	1	1	103	1	1	103	F003(仮名)	F1	1	直接基礎	l		
4	1	3	101	1	3	101	F004(仮名)	F1	1	直接基礎	ſ		
5	1	3	103	1	3	103	F005(仮名)	, F1	1 N	直接基礎	J		
6	1	4	102	1	4	102	F006(仮名)	/	0	直接基礎			
7	1	4	103	1	4	103	F007		0	有接基礎			
0									U U	ELENCE AND			
g									Ű	e iscarou	<u></u>	(F. )	
9 9							$\mathbb{Z}$		-	e la serve	<u></u>	(Ł)	
9 10		×=-			基礎名	」 は「F	1」に	基礎グ	· ルーフ	°は「1」	<u>りぃープ</u> ケぃーブ育	化 ¥除	
。 9 10 荷	重内訳	を表示 3称		建名	基礎名 こってV <sup>917</sup> 1	は「F る 哩		基礎ク <sup>*</sup> になっ <sup>*</sup>	<i>ルーフ</i> ている	°は「1」	<u>ケッルーフ。</u> ウッルーフ。 M	Æ ₩	
。 9 10 荷	重内訳	を表示 G称		また。	基礎名 こってい 917 1	は「F いる		基礎 ク <sup>*</sup>	<sup>*</sup> ルーフ <sup>*</sup> ている		<u>ケッルーフ。</u> ケッルーフ。 M		ሳ/ም
。 9 10 何 1 2	重内訳 仮名	を表示 G称		建名	を礎名 こってい 917 1	は「F いる 『里		基礎ゲ になっ <sup>、</sup>	<i>ルーフ</i> ている	°は「1」	<u>ゲループ</u> ケループ ケループ M		<u> </u>
。 9 10 荷 1 2 3	重内訳	を表示 5称		 た。 礎名	基礎名 こってい 917 1	は「F いる <sup>■</sup> 里		基礎 <sup>ク</sup> になっ <sup>、</sup>	・ パルーフ <sup>・</sup> ている		<u>ケ<sup>*</sup>ルーフ<sup>*</sup> ケ<sup>*</sup>ルーフ<sup>*</sup>角     M</u>		<i>9J7</i> -
8 9 10 1 2 3 4	重内訳	·を表示 	設計基	<u>ま</u> た。	き礎名 cってい <sup>917</sup> 1	は「F る		基礎 <sup>が</sup> になっ <sup>、</sup>	` <i>ルーフ</i> ' ている		<u>り</u> ルーフ・ りルーフ <b>御</b>		/ህም~
0     9       10     荷       1     2       3     4       5     2	重内訳	を表示 3称		また。	を礎名 こってい 947 1	は「F る 『里		基礎ク <sup>*</sup> になっ <sup>*</sup>	· ルーフ・ ている		<u>り</u> ルーフ・ ケルーフ 御		<u>917~</u>
0     9       10     荷       1     2       3     4       5     6	重内訳	を表示 3称		 建名	基礎名 こってい 917 1	して は「F る 「里」」		基礎ク <sup>*</sup> になっ <sup>*</sup>	<sup>2</sup> ルーフ <sup>*</sup> ている	*t[1]	<u>り</u> ルーフ・ ケルーフ 作 M		ንህፖ~
0     9       10     荷       1     2       3     4       5     6       7     2	重内訳	で表示 5称		 オ。 握名	基礎名 こってい 947 11	は「F る ■		基礎 <sup>ク</sup> になっ 	<i>ルーフ</i> ている	°it[1]	「 ケネーフ・ ケネーフ・ ケネーフ・ M		/リン~
0     9       10     荷       1     2       3     4       5     6       7     8	重内訳	を表示		建名	基礎名 こってい 947 1	は「F る <sup>可里</sup>		基礎 <sup>ク</sup> になっ、	· ルーフ ている	°tt[1]	<u> </u> ケルーフ ・ M		<u> ካቻ</u> ~
0     0       10     荷       1     2       3     4       5     6       7     8       9     10	重内訳	を表示 3称	設計基	 ま た。	基礎名 こってい 917 1	は「F る ■			· <i>パルーフ</i> ている	*****	「 ケルーフ" ケルーフ" M		<u> ነህፓ~</u>

b. 既にグループ化されている基礎のグルーを変更する

先に2行目から5行目の基礎に「F1」と基礎名を指定したが、この中の一部を含め別のグループを作成してみます。

ここでは説明のため、5行目から7行目までの基礎を「F2」として登録ます(この範囲内には 5行目の基礎が既に「F1」グループに登録されています)。



それでは操作開始です。

5	BST	-G89	TMI	から読え	しんだ基	礎位置。	設定	範囲の	の最	初の5彳	「目を	左クリッ	ックし			
	ASD	邸新築	工事(S	造)			/	7								1
		層	70-4	軸	層名	71-6-2		顶名	称	設計基礎名	ケルーフ°	\$17°	T			
	1	1	1	101	1	$\succ$	- 101	F001 (	反名)		0	直接基礎	選択	を解除		
	2	1	1	102		1	102	F002(	反名)	F1	1	直接基礎			-	
	3	1 (	$\mathbb{D}^{1}$	20-	1	1	103	F003(	反名)	F1	1	直接基礎				
	4	1		101	1	3	101	F004(	反名)	F1	1	直接基礎				
	5	1	3	103	1	3	103	F005(	反名)	F1	1	直接基礎	<u>I</u>			
	6	1	4	102	1	4	102	F006(	反名)		0	直接基礎	3			
	7	1	4	103	1	4	103	F007(	反名)		0	直接基礎			<u> </u>	
	8	2	$\land$	$\leftarrow$									グル	-7°1E		
	9		$ \rightarrow $										hill		1	
	10		$\vdash$										970-	× 100		
	荷	重内訳	を表示	$\sum$										$  \rangle$		
		仮彳	5称	1ga			「東」	N	ŀ	H M		N	н м	$\neg$	\	
	1						Ł								5/7-	
	2	一副	と定領	6囲の	つ最後	の7彳	千目な	> Shift	+左:	クリックで	まとめ	選択し	~			
	3												`			
	4															
	5												</td <td><sup>ルーフ</sup></td> <td>化〉ボタンをクリ</td> <td>ックする</td>	<sup>ルーフ</sup>	化〉ボタンをクリ	ックする
	6															
	7															
	8															
	9															
	10													•		
															終了	

#### BST-F1.02





グループ化の操作説明は一端終了しメインメニュー画面に戻ります。 <終了>ボタンをクリックしてください。

メインメ	<u>-</u> 1-								Γ									
ファイル(	E) 編集(E) }	実行(E) 設定(M	D							グ	ルー	・プ1	の基	礎				
I	事名: ASD邸	新築工事(S造)						(SI単位)	, L	7	/	_						
ファイ	ル名: ASD邸	新築工事(S造)					_		/	/ /								
入力	済み基礎データ	则スト(データ数:	7)					/							(BST-G8	9TM2力v3	の読込デー	\$)
	設計基礎名	仮基礎名	層	76-4	車由	<u></u> \$イフ°	L×(m)	L	(nx)	(ny)	(@x)	(@y)	хŧ					
		F001(仮名)	1	1	101	直接基礎	0	/ 0	2	2	2	2						<b>v</b>
1	2 F1	F002(仮名)	1	1	102	直接基礎	1	0	2	2	2	2						
	F1	F003(仮名)	1	1	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2						
	F1	F004(仮名)	1	3	101	直接基礎	0	0	2	2	2	2						
	5 F2	F005(仮名)	1	3	103	直接基礎	0	0	2	2	2	2						
	F2	F006(仮名)	1	4	102	直接基礎	<ul> <li>0</li> </ul>	0	2	2	2	2						
-	F2	F007(仮名)	1	4	103	直接基礎	ð		2	2	2	2						
1	3								$\overline{}$	_								
	9									$\overline{}$								
10	)								Ĺ	$\rightarrow$					٦			
										グ	ルー	プロ	2の	基礎				_
									L							C	終了	
BST	-F1(基礎の設計	-) ver2.01 02		http://a	sdlab.c	om	s	upport@	asdlab.	com	_		(C)2010	) ASD Lat	ooratory A	llright re	served.	100625

メインメニュー画面に戻るとグループ分けされているのがわかると思います。

以上で{BST-G89TM II から読み込んだデータの整理}での操作説明を終わります。 お分かりのように、{BST-G89TM II から読み込んだデータの整理}での操作は至って簡単 なものすから、色々と試してみてください。

- 5. 基礎データの入力画面
  - 5.1 直接入力したデータとBST-G89TMⅡから読み込んだデータの違い

先にも説明しましたように、BST-F1.02のデータ形式は2種類あります。 「直接入力したデータ」と「BST-G89TMⅡから読み込んだデータ」です。

データ作成での大きな違いは、「BST-G89TMⅡから読み込んだデータ」の場合は「グループ 化をする」というところにあります。

その他にも違いはありますが、それらはプログラムの内部的な事柄で、お客様が直接関与しなければいけない点ではありませんのでご安心ください。

しかし上記の「グループ化」そ以外の基礎に関する詳細な入力等は、どちらのデータ形式も 同じです。

以下に、直接基礎と杭基礎の入力画面および入力項目について、簡単に紹介をしますので、 ご覧になり確認してください。

5.2 直接基礎の入力画面

a. 「メイン」入力画面

入力画面は[メイン画面]と[詳細画面]の2面に別れています。

- ・ここでは[メイン画面]の紹介です。
- ・メイン画面は設計応力、基礎のサイズを入力します。
- ・ 柱型の位置は、基本的に底面の中央に設定されています。
- ・ 柱型の位置が底面の図心にない時は「偏心位置指定」でその偏心位置を入力します。
- ・メモは 120 文字まで入力できますが、印刷対象ではありません。入力したデータのメモとしてお使いください。





b.「詳細」入力画面

ここでは[詳細画面]の紹介です。

- ・ VUP02 では設計配筋の指定ができるようになりました。
- ・ ここを構造図での配筋と同じ条件にしておくと、計算結果は設計配筋の指定条件で出力されますんで、結果として構造図と計算書の結果が同じになります。
- また、ここでの入力により計算結果の出力で、配筋図も出力することができるようになりました。



## 5.3 杭基礎の入力画面

a.「メイン」入力画面

杭基礎でも直接基礎と同様に、入力画面は [メイン画面]と[詳細画面]の2面に別れています。

・ここでは[メイン画面]の紹介ですが、基本的には「直接基礎」と同じですので割愛します。 入力画面をご覧になり確認してください

🗅 杭基礎の設計(訂正)	杭本数はここで指定する	
メイン   詳細	7/	
杭本数 n= 2 ▼	[名称] PF2	(SI単位)
N M	×長期 軸力 N= 124	Y長期         X短期         Y短期           43.8         0         0         kN
	水平力 H= 0 杭径 $\phi = 450$	0     0     ki in       mm     へりあき(やxi)1.25d以上     ki in       杭間隔     (Px2) 2.5d以上かつ750mm以上
	Py1         Px1=         600           Py1         Py1=         600           Py1         Et型]         ax=         600	枕間隔 mm Px2= 1200 mm mm Py2= 0 mm mm
Px1 Px2 Px1	ay=   600 [根入] h1= 1200 h2= 1000	mm メモ(120文字まで入力できます) mm
<ul> <li>              ← 枕の建筑</li></ul>	[ 底絵厚 ] 基端D= 650 先端D'= 650 かぶりd= 190	mm mm ※メモリは計算者に印刷されません。 mm ※120文字分まで入力できます。
複製他の共通値の	目は〈詳細タブ〉で入力できます	キャンセル 現状記録終了 登録
の種	類はここで指定する	

b.「詳細」入力画面

杭基礎の詳細画面ですが、直接基礎と同じです。

3 杭基礎の設計(訂正)	
メイン 詳細	
杭の支持力 Pe 800 kN/本 コンクリート Fc 24 N/mm2 コンクリート単位重量 Wc 24 kN/m3 埋戻土単位重量 Ws 20 kN/m3	共通値編集 種類 サイズ X(積)方向鉄筋 <u>SD295 ▼ D19 ▼</u> Y(縦)方向鉄筋 <u>SD295 ▼ D19 ▼</u>
端空き(mm) 本数(h本) @(mm) X方向鉄筋 90 10 200 Y方向鉄筋 90 10 200 配筋決定優先 C 計算結果優先 C 計算結果優先 C 鉄筋間隔@)優先	X方向の入力         Y方向の入力           X方向鉄筋の脂原®         Y方向鉄筋の脂原®           X方向鉄筋の間原®         Y方向鉄筋の脂原®           X方向鉄筋の脂原®         Y方向鉄筋の脂原®           X方向鉄筋の端空き         Y方向鉄筋の本数
<配筋決定優先>で指定した優先項目に従って、∂ ◎:断面設計後、配筋を決定する際の「鉄筋間 本数:断面設計後、配筋を決定する際の「最大4	, ジ要な記筋決定条件を入力してください III の最大値」を入力してください ま数」を入力してください
2000年1月1日には「「「「「」」「「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「」」	)できます キャンセル 現状記録終了 登録

ここでは、〈現状記録終了〉ボタン、〈登録〉ボタンおよび〈複製〉ボタンの三つのボタンについて 簡単に説明します。

#### 5.4.1 〈現状記録終了〉ボタン



この機能は VUP02 で追加された機能です。

旧ハージョンを含めて、基本的にBST-F1では入力画面を終了する時には、入力データの内容をチェックし、OKであれば記録して終了する、という処理をしています。

しかし、入力作業を終了するときは、例えば「急用で取り敢えず作業を終了しなければいけ ない」場合もあります。

そんな時には殆どの場合、データチェックで警告が出てもその場で対処できないことが殆ど です。

そこで VUP02 では新たに<現状記録終了>ボタンを設けました。

このボタンをクリックすると、入力データのチェックをすることなく、とにかく現状を記録して入力画面を終了しますので、取り敢えず、急ぎ入力作業を終らせる時には非常に便利な機能です。

5.4.2 〈登録〉ボタン

複製	他の共通値の設定項目は〈詳細タブ〉で入力できます	キャンセル	現状記録終了	登録	

このボタンは上記の<現状記録終了>ボタンとは違って、入力データの内容をチェックし、不備な点や不整合な点があれば警告文を出し、修正を促します。

従って、<登録>ボタンを使って入力作業を終えるには、データが正しく、過不足なく入力されている必要があります。

5.4.3 〈複製〉ボタン

この機能は VUP02 で追加された機能です。

この機能を使うと、応力以外のデータは同じ内容の新規基礎データが作成されますので、 非常に便利です。

この機能を使うと、現在入力中のデータは、

取り敢えず<現状記録終了>ボタンと同じ処理で記録され、

応力を除いて、他のデータは全て同じ内容のデータが新規作成されます。

このとき基礎名は現在入力していたデータの基礎名に「の複製」が付けられた基礎名になる。

例えば複製もとの基礎名が「F1」の時は複製されたデータは「F1 の複製」という名称になります。



## 6. 計算結果の表示

6.1 テストデータについて

計算結果の表示内容が変更されました。

ここでは、下記メインメニュー画面のように、直接入力された基礎データの計算をし、その結果 を表示させる設定で説明します。

ここで使用するデータは、直接データ×1、杭基礎×2、合計3データの構成となっています。 テストデータの内容に関しては、故意にエラーが発生するようにしたりしていますので、計算が 終了する程度の考察しかしていないので、非現実的な値が使用されている場合もありますが、 予めご了承ください。

312	x−1-														
771)	 レ(E) 編集(E) §	実行(E) 設)	定(M)												
	工事名: 「サンブルデータ新築工事_1 (SI単位) ファイル名: 「V02 サンブルデータ新築工事_														
고	ファイル名: \v02_サンブルデータ新築工事_       入力済み基礎データリスト(データ数:3)														
	設計基礎名	TYP	ax(cm)	ay(cm)	Lx(m)	Ly(m)	(nx)	(ny)	(@x)	(@y)	хt				
	1 F1	直接基礎	600	600	3300	3300	10	10	200	200.			<u> </u>		
	2 PF2	杭基礎	600	600	2400	1200	10	10	200	200					
	3 PF3A	杭基礎	600	600	2400	2239	10	10	200	200					
-	4											杭基礎×2			
-	5											和基礎大量			
-	6														
-	/														
-	8														
-	9														
L	10												1		
												<u> </u>	á		
BST-	F1(基礎の設計)、	ver2.01_02	http:	//asdlab.	.com	s	upport	@asdla	ab.com		(C)2010 A	SD Laboratory Allright reserved.	100625		
					テ	ストラ	<u>ت</u>	à							

6.2 操作

6.2.1 表示画面が表示されるまで

ー度計算をして、その後入力データの変更等がされていない場合は、メニューから直接 [実行]→{計算結果の表示・印刷}とすれば結果が表示されます。

41.14-	·						
ファイルビ	) 編集性) 美	見(丁(生) 設)	E( <u>M</u> )		-		
т.	事々・ 中 -	計算開始		Ctrl+	G	(51単位)	
1	₽-10 /0 /	計算結果の	表示·印	矵 Ctrl+	P 🔪		
ファイル	ル名: 1/02_5-5	<del>/ ///////////////////////////////////</del>	लाजवर्ग ⇒	-			
入力消	済み基礎データ	リスト(データ	쨇:3)				
	設計基礎名	TYP	ax(cm)	ay(cm)	Lx(p		*
1	F1	直接基礎	600	600	33	計質公 1 カデータの亦雨がされていたけれげ (計	山質閲
2	PF2	杭基礎	600	600	24	可异仮、ハハノ ~ グロ友文/MCAUCV Manadola 、[]	异  刑
3	PF3A	杭基礎	600	600	24	始}をしなくても直接{計算結果の表示・印刷}で結果	まを表
4							
5						示できる	
6							
7							
8							
9							
10							
						[	
BST-F1(	(基礎の設計) ve	er2.01_02	http:/	//asdlab	.com	support@asdlab.com (C)2010 ASD Laboratory Allright reserved. 1	00625

しかし、表示 直前 にデータが変更されたりしている場合は、「まだ計算されていません」という警告 文が表示されますので、その時は上図のように{計算開始}をクリックして計算をしてください。

ー度計算をして、その後入力データの変更等がされていない場合は、メニューから直接 [実行]→{計算結果の表示・印刷}とすれば結果が表示されます。

メインメニ	.ı-								
ファイル(E)	) 編集( <u>E</u> ) 実	新行(E) 設	定( <u>M</u> )						
Та	事名: [#`/-	計算開始	Ctr	+G			(SI単	付〉	
ファイル	ノノ- ル名: MO2 サー	計算結果の	〕表弁A ♥ Ctr	+P		_			
አታነኝ	音み基礎データ	リスト(デー	気数:3)						
	設計基礎名	TYP	ax(cm) a	w I	.y(m) (n:	(ny)	(@x)	(@y)	XE 🔄
1	F1	直接基礎	600	7	3300 1	0 10	200	200	· ·
2	PF2	杭基礎	600		<b>V</b> Q0 1	0 10	200	200	
3	PF3A	杭基礎		ж. с. Га	甘 /二 1	.[ <b>⇒</b> [.4	今日日.	4/51.1	い佐 7、
4			×	ーからしき	夫1]]⁻	→(ift]	₽ 刑;	(日)と	に進み、
5			クリック						
6									
7						_			
8									
9						_			
									[ 終了]]
BST-F1(	基礎の設計) ve	er2.01_02	http://asdla	b.com	supp	ort@asdl	ab.com		(C)2010 ASD Laboratory Allright reserved. 100625

{計算実行}をした場合、計算は一瞬で終わります。 そして、その旨メッセージ画面が表示されますので、〈OK〉をクリックしてください。



これで計算結果を表示する画面が表示されます。 この表示画面の説明は次ページにあります。



※ エラーレポートにエラー(赤文字)が表示されていますが、サンプルデータ、サンプル画面のため、わざとこの 状態にしています。

#### 6.2.2 表示機能の改良点について

表示画面は下図のようになっています。 計算結果の表示画面が変更され、より見やすく使いやすいものになりました。 以下に主な変更点について説明いたします。

## ■ページ移動ボタンが使いやすくなった

ページ移動ボタンを大きくし、使いやすいものにしました。

#### ■計算結果のエラーが確認しやすくなった

計算結果にNGがあった場合にも、旧バージョンでは個々の計算結果を見ていかなければ、計算結果にエラーはあるのか?いくつのエラーがあったのか?といったことが分かりませんでした。 VUP02ではそれら情報を表示画面のコントロール部分に「エラーレポート」として表示させるようにしました。これにより、計算結果にエラーがあったのか?の情報がすぐにわかり、大変使いやすくなりました。

#### ■表示サイズの縮小/拡大がより便利になった

表示サイズも広く/狭くすることもできますし、縮小/拡大もできますので見やすいサイズにして結果を 確認し、印刷することができます。

#### ■設計用の配筋条件が入力できるようになった

この機能により、基礎の計算結果出力で、鉄筋に関する出力が、設計図に書かれる配筋と同じ内容で出力できるようになりました。

その結果、「計算書(BST-F1.02)の出力と設計図で、配筋内容が違う」といった事が回避できるように成りました。

■基礎断面図・配筋図が出力されるようになった

計算結果の出力も、計算値のレポートだけではなく、基礎断面図や配筋図も出力されるようになりましたので、計算書に添付する書類も、BST-F1.02で印刷するだけで、別途基礎断面図を描かなくても済みます。

これで基礎の計算書作成は大幅に時間短縮ができるようになりました。

#### ■その他

VUP02 では上記の他にも細かい点で、改良が加えられています。 以下にそれぞれについて簡単に説明をします。

## 6.2.3 表示画面



## 6.2.4 拡大表示·縮小表示











このボタンで計算結果の表示サイズを大きくしたり小さくしたりできます。 この機能を使って、見やすいサイズ(縮尺)で計算結果をご確認ください。 なお、サイズ変更(縮尺変更)は画面表示に対してのみで、印刷に対しては作用しません。



**ASD Laboratory** 

## 6.3 計算結果の表示

計算結果の出力についてサンプルを示しますので、ご確認ください。

## 6.3.1 直接基礎の表示

出力の2ページ(1ページは表紙)の直接基礎の出力サンプルです。

Ē		基礎名		3	■F1()	由立基礎)		■鉄筋					2/4
				長期	Я	短期		X方向 SD295-D19	9 at=2.85 ψ=	6.00			K < >
				X方向	Y方向	X方向	Y方向		Lft=196 sft=	295 (N/mm²)			
		N軸方向力	kN	176	0.0			Y方向 SD295-D1:	9 at=2.85 ψ=	6.00			
基	入力値	M モーメント	kN•m							295 (N/mm²)			1-1
曜		H水平力	kN	8		3	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	■ コンクリート	Fc=24	(N/mm²)			<u> </u>
應		N'軸方向力	KN	1760	0.0				Lto=8 sto=	16 (N/mm²)			
t		基礎自重		(6.3m <sup>3</sup> )		150.7kN			Lfs=0.8 sfs=	1.6 (N/mm <sup>2</sup> )			ラーレポート
椄	設計値	埋戻土自重		(10.1 m <sup>3</sup> )		201.2kN			Lfa=2.3 sfa=	4.6 (N/mm²)		j	独立フーチング港
n		NN(自重・埋戻土を含む		2061.3				単位重重	Wo=24	(kN/mm <sup>a</sup> )		1	杭基礎
曜		日水平力	kN			1	S	■埋戻土 単位重量	Ws=20	(kN/mm <sup>a</sup> )		5	其私牲員公司∔選択
2		M モーメント	kN•m	2			3	■地耐力	Lfe=200 sfe=	400 (kN/mm²)		-	±94668019X
	Σ M=M+	(H×h1)	kN•m			1		■ dt = 90mm					
	e=ΣM/I	V+ε	mm										
11	e/L	2012	0000			1				· — Ť			
lŀ		偏心判定?		1/6以下		3							
lŀ	0	10.011.0		0.000		1			L				
l ł	Yn					1				1			
Ιł	Xn 必要店面辖(A'= a N/fe)			10.307m	21:J F		8			400			
$\vdash$	必要感回積(A=d N/1e) 判定(A'< A?)			A=10.890m <sup>2</sup> OK									
lŀ	e'=ΣM/N'+s mm				A-10.03								
-	e - 2 1917	N T O	3000			-	÷	<u> </u>		<b>+-</b> +	-		
£.	e/L						2						
Ľ.	u Ve'					2	2	\ 4		1350			
22	An		Lb1/m2	161.6				1 \ 9					
			KNV/III-	700.0					-4	3300			
-n-			KIN	120.0		+	-			600			
B≷ -	M.	/// B/ ()	KN•m	486.0			-	1 /4					
ΒT	)=(//8)a	(d =D1-d)	mm		42	20.1		4		0.000			
	必要at=h	M/(π•j)	cm-	58.2				/ #		1350			
	必要↓≕	Q/(fa•j)	cm	73.1				I/ 7					
	能筋決定			X方向 21-D	19(0200	) Y方向 21-	D19(0200)		10000				
	atの確認	82 	cm <sup>2</sup>	Σ at=59	.9 OK	Σ at=5	9.9 OK	1350 600	1350				
	∉の確認	]	cm	Σψ=120	5.0 OK	Σψ=12	26.0 OK	3300		F			
せ,	ん断の	Q/Lj	N/mm <sup>2</sup>	0.512				X方向 21-0	019(0200)				
	検討	判定(Q/Lj <f< td=""><td>\$)?</td><td>ок</td><td></td><td>1</td><td></td><td>Y方向 21-0</td><td>019(0200)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></f<>	\$)?	ок		1		Y方向 21-0	019(0200)				
1	20	60, A0		ЬC	)=3.9m	A0=1.13m	2						
112	チングの	Q <sub>PD</sub>	KN	1573	7.3								EDA
L	検討	Q <sub>PA</sub> =1.5b0•j•fs	KN	2009	9.2								
L		Qpp <qpa td="" 判定<=""><td>Ē</td><td>01</td><td>(</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>問</td></qpa>	Ē	01	(								問

6.3.2 杭基礎の表示

出力の3ページ(1ページは表紙)の杭基礎の出力サンプルです。



## 出力の4ページ(1ページは表紙)の杭基礎の出力サンプルです。 この出力例にはエラーはありません。

	基礎名		S	■PF3A	(杭基礎)		■鉄筋			4/4
0				明	短	期	X方向 SD295-D1	9 at=2.85 ψ=6	i.00	K < [3
			X方向	Y方向	X方向	Y方向		Lft=196 sft=2	95 (N/mm²)	
入 N軸方向	ולו	kN	124	3.8			Y方向 SD295-D1	9 at=2.85 ψ=6	i.00	
カ M モーメン	٢	kN•m						Lft=196 sft=2	:95 (N/mm²)	4-1
値日水平ナ	)	κN					■ コンクリート	Fc=24	(N/mm²)	
N'軸方向	ョカ	κN	124	3.8				Lfc=8 sfc=1	6 (N/mm²)	100
設 基礎自重	İ	kN	3.7m <sup>3</sup>	88.	6KN			Lfs=0.8 sfs=1	.6 (N/mm²)	_ Iラーレホペート
計 埋戻土重	i重	κN	2.8m <sup>3</sup>	55.	1 KN			Lfa=2.3 sfa=4	4.6 (N/mm²)	独立フーチングを
値NN値重	・埋戻土を含む)	KN	138	7.5			単位重重	È ₩o=24	(kN/mm²)	杭基礎
日水平ナ	1	KN			-		■埋戻土 単位重重	È ₩s=20	(kN/mm <sup>3</sup> )	基礎設計数
Μ モーメン	٢	kN•m					■杭径	450 mm		
Σ M=M+	(H×h1)	kN•m				.) ———.	■杭の種類	既成コンクリートお	い開端抗	
支持力P	e	kN•m	80	0			■杭支持力	LPe=800 sPe=	16000kN/mm²)	
R1	max	KN	462.5				■ dt = 190mm			
抗	min	KN	462.5			j –	■杭の埋め込み深	さ=100mm		
荷 R2	max	KN							-+	
重	min	kN						<u> </u>		
R3	max	KN	462.5				L – É	1000	1300	
	min	KN	462.5				-	6\$0 <sup>°</sup>		
л	ax判定?		ок			J.	- Litata		-	
п	in判定?		ок				600 1200	600		
抗 抗反力R	1	kN	41 4.6				E			
反杭反力日	2	KN					<u>III</u>			
力 杭反力R	3	KN	41 4.6					819.5		
		KN	41 4.6				r <del>if</del> ∏		9	
		kN•m	124.4							
7 j=(7/8)d	(d'=D1-d)	mm		40	2.5					
Mn 必要at=1	w/(tt+j)	cm-	15.8				~ <u>₩</u>	111 °L"."		
0) 必要 ψ=	≕Q/(fa•j)	cm	44.6			D 4 0 ( 0 0 0 - )				
段 配筋決定			入方向 11-1	219(0200)	Y方向12-	019(0200)	1 200 1 600 1 2	900		
st st(cm2)0	)배값 The ER		Σ at=31	.4 UK	Σat=3	4.2 UK	+ 2400	+		
ψ (cm)0) -Η / 85 m	10-70-3 10-70-3	1/ 2	Σψ=60	0.U OK	Σψ=7	2.U OK	X方向 11-1	D19(@200)		
ビ ん町 U) +&=-	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	N/ mm4	0.460				Y方向12-	D19(8200)		
税割	FJJ定Y(U/Lj <f< td=""><td>s) Luu</td><td></td><td>1.500</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></f<>	s) Luu		1.500						
ハンチング	机位置,R	KN	R3*=41	4.6(X)	-					
いパワ言引	GPA=1.000+J+TS		138	0.6	-					ÉD
	H ≡ UPA FIJZ	2 F.	0	N						

7. 旧保存データの使用について

旧保存データは新バージョンの保存データとはファイル形式が違うためそのまま使用することはで きません。

しかし、プログラムに変換機能をつけることができましたので、この問題は解決しました。 操作、その他については、2.1.1 a.[ファイル]→{データを開く}(p.7)を参照してください。

8. 新保存データについて

VUP02 で保存される新保存データは、旧保存データとの区別するため、データ名の頭に自動的 に v02\_ が付けられていますので、同じホルダに保存しても区別できるようになっています。

保存ファイル名の例

旧保存ファイル名: ○○○邸新築工事.lzh 新保存ファイル名: v02\_○○○邸新築工事.lzh

9. SI データのみの対応となった

**BST-F1**は VUP02 になって対応する単位系は SI のみとなりました。 (2.1.2 a.[編集]→{工事名・ファイル名の修正}を参照(p.9)) 10. 杭間距離のとり方が変更された

一部の杭配置で杭間距離のとり方が変更されました。

これらは図は、データ入力時にも杭本数を指定すると表示されますので、間違わないように入力してください。



11. 一度に複数行のデータ削除ができる

入力されている基礎データで不要なデータを削除する場合、旧バージョンでは<u>1データ(1 行)</u> つしか削除できませんでした。しかしこれでは削除したいデータが複数行あった場合、

「削除データ選択」→[基礎データ作成]→{基礎データの個別削除}→<OK>

の操作を<u>削除したいデータの行数分繰り返さなければいけません</u>。 これはかなり面倒な作業で大変でした。

VUP02 では、一度に複数行のデータを削除する場合でも、一度で削除できるように改善しました。

これにより不要な基礎データが複数行あっても、削除作業は大幅に短縮され簡単になりました。 詳細な操作は、2.1.2 b.[編集]→{選択中のデータを削除}(p.9)を参照してください。

12. 出力用フォント設定機能が追加

VUP02 になって、計算結果の表示や印刷出力で使用するフォントの設定ができるようになりました。

まだまだ機能は万全ではありませんが、詳細は「2.1.4 a. [設定]→{出力用フォント設定}」(p.12)に 記載していますので、そちらを参照してください。

13. その他・使用にあたっての注意点

**BST-F1.02** を使うときは、**BST-F1.02** 用に支点反力を出力する機能の付いた最新バージョンの Ver9.55 rev.100625 以降の BST-G89TM II をお使いください。

直接基礎。杭基礎の計算プログラム BST-F1 VUP02 説明書

2010 年 6 月 30 日 エーエスディー ラボラトリー(ASD Laboratory)

住所 〒350-0054 埼玉県川越市三久保町 5-1-404 電話 049-229-5155 FAX 049-225-4755